

2、契紙費 賣典契約者ハ當該官署ヨリ契紙ヲ請領セサルヘカラス契紙費ハ一枚大銀元五角トシ契約當事者雙方ノ均分負擔トス

3、戸管 戸管トハ賣契稅納付濟證明書ナリ契稅ヲ納付スレハ官ヨリ所有者ノ姓名、不動産ノ數目等ヲ記入シタル戸管ヲ原契約書ト共ニ下附ス戸管下附ノ爲メ證書一通ニ付銀一兩ヲ徵收ス

4、典契執照 典契執照トハ典契稅納付濟證明書ナリ證書一通ニ付銀六錢ヲ徵收ス
不動産登記費

上記契稅ハ登記費ト混同セサルヲ要ス契稅ハ一種ノ登錄稅ナレトモ徵稅ヲ主ナル目的ト爲シ各種權利移轉ノ證明ヲ爲スニ不充分ナレハ民國四年六月奉天省試辦不動産登記規則ヲ發布シ契稅制度ト兩立セシム故ニ茲ニ登記費ヲ掲クレハ左ノ如シ

(甲) 土地

- 1、賣買、拂受、時效若クハ其他ノ法律行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元五分
 - 2、相續、分割若クハ交換ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元三分
 - 3、契約ニ因リ永小作權、地上權若クハ質權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元三分
 - 4、抵當ニ因リ抵當權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元二分
 - 5、賃貸ニ因リ賃貸權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元二分
- (乙) 山林、葦塘、鹽灘、蕩地(作鹽場)、牧地、亮口(場)
- 1、賣買、拂受、時效若クハ其他ノ法律行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元二分
 - 2、相續分割若クハ交換ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元一分五厘
 - 3、契約ニ因リ永小作權、地上權若クハ質權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元一分

(丙) 家屋及建築物

- 4、抵當ニ因リ抵當權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元一分
 - 5、賃貸ニ因リ賃貸權ヲ取得シタルモノハ一畝ニ付大銀元一分
- 1、賣買、拂受、時效若クハ其他ノ法律行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノハ價格百元ニ付五角
- 2、相續分割若クハ交換ニ因リ所有權ヲ取得シタルモノハ價格百元ニ付三角
- 3、質ニ因リ質權ヲ取得シタルモノハ價格百元ニ付三角
- 4、抵當ニ因リ抵當權ヲ取得シタルモノハ價格百元ニ付二角
- 5、賃貸ニ因リ賃貸權ヲ取得シタルモノハ價格百元ニ付二角

登記簿閲覧手数料ハ一回ニ付大銀元五角、登記簿謄本ト下附手数料ハ百字ニ付大銀元二角ト

● 捐 畝捐ハ教育警察等ノ地方行政費ニ充ツル爲メ田地ニ賦課スル稅金ナリ稅率ハ田地ノ良否ヲ問ハス總テ一畝ニ付每年小洋一角ニシテ春秋二季ニ分徵ス

● 保衛團費 保衛團ノ經費ハ田地ニ賦課シ農民ヨリ徵集ス其徵收率ハ土地ノ良否ヲ問ハス總テ一畝ニ付每年小洋六分トス

ナ、養 蜂 業

輝南及様子哨地方ニハ農家ノ副業トシテ蜜蜂ヲ飼養スルモノアリ

蜂ハ一年二回分封ス分封季ハ第一回ハ四、五月ノ間第二回ハ八、九月ノ間ニシテ收蜜季ハ九十月ノ交ナリ一窠(巢)ヨリ二十斤乃至三十斤ノ蜜ト四、五斤ノ黃臘トヲ得

支那ニテハ蜜及蠟ハ貴重ナル藥品ニシテ收蜜季ニハ輝南及様子哨ニハ集市アリ奉天地方ヨリ商人ノ來集買付ヲ爲スモノ多ク例年兩地ニ於テ取引セラルル額ハ蜂蜜八千餘斤黃臘約千五百斤ニ上リ内沿線地方へ輸出セラルル數量ハ蜂蜜七十斤黃臘九百斤ナリ取引値ハ蜂蜜一斤小洋貳角五分、黃臘一斤六角内外ナリ

柳河縣東部地方山岳丘陵ニハ柞樹繁茂シ附近農家ノ副業トシテ柞蠶ノ放養ニ從事スルモノ五百數十戸アリ柞蠶ハ春秋二期ニ飼養ス 例年春蠶ハ穀雨前後ニ秋蠶ハ立秋節前後ニ幼蟲ヲ柞樹林ニ放テ諸鳥ノ來リ隊ムヲ妨止スレハ九十五日許ニシテ繭トナル春繭ハ秋繭ニ比シ形小ニシテ價格廉ナレハ之ヲ飼育スルモノ甚タ稀ナレト繭ハ白色ヲ帶ヒ却テ賞玩セラル柳河縣下ニ於ケル柞蠶繭ノ産額ニ就テ農務會ノ調査シタル所左ノ如シ

良繭	九、二〇四
玉繭	一、六三〇
屑繭	六五〇
出穀繭	三、一六五
合計	一四、六四九

右ノ内鐵道沿線地方へ輸出セラルル數量左ノ如シ

良繭	八、五〇〇
玉繭	一、五〇〇
出穀繭	二、〇〇〇
合計	一二、〇〇〇

輸出品ハ總テ熱氣乾燥ノ上木箱ニ收メ安平ヲ以テ上包ヲ爲セリ一箱ノ重量約百七十斤内外トス絹紡織數及其輸出品ニ就テハ工業ノ章參照

第二節 牧畜

イ、牧畜ノ概況

常館管内ニ於ケル牧畜ハ概シテ農家ノ副業ニ係リ專業トシテ之ヲ經營スルモノ無ク僅ニ農家等ニ於テ耕作用又ハ運搬用トシテ馬、騾、牛、驢ヲ飼養シ之ヲ山地又ハ甸地(耕作セサル地)ニ放牧スルモノアルヲ見ルノモ當地方ニ於ケル農家、粮棧、客棧等ニアリテハ緊需用若クハ勞役用トシテ各戸平均馬、騾、驢ヲ合セテ五、六頭乃至二十頭ヲ飼育セル外庭内ノ落穂又ハ漏穀ヲ隊マシムル爲メ家禽二十羽内外ヲ養スルモノ多シ又油房、燒鍋、磨房等ノ工場ニアリテハ穀類ノ運搬若クハ其壓搾脱穀、製粉等ニ用フル石臼運轉ノ動力トシテ牛、驢馬又ハ馬ヲ飼養ス其飼養數ハ普通十頭乃至二十頭ナリ

馬ハ蒙古種ノモノノミニシテ鄭家屯方面ヨリ輸入セラレタルモノト當地方ニ於テ養成シタルモノト相半ス蒙古種ノ馬ハ一般ニ四肢短ク歩度從テ稍短シト雖モ健脚ニシテ性順和ヨク粗食ト酷寒ニ堪ヘ持久力ニ富メルヲ以テ緊需用ニ佳ナリ驢馬ハ形小ナリト雖モ極メテ重力並長時間ノ勞役ニ堪ヘ運搬用トシテ適セリ

騾ハ馬騾ノ混血ニヨリテ生ス體軀馬ヨリ優レ極メテ牽引力ニ富ミ鞍馬トシテ最モ適當ナリサレハ當地方ニ於ケル支那馬車ニハ何レモ之ヲ繫套シヨク數千斤ノ貨物ヲ積載シテ險惡ナル道路ヲ一週間(一日十里乃至十五里)以上索カシムルモ更ニ倦疲スルコトナシ

牛ハ農家ニ在リテハ主トシテ運搬又ハ耕作用ニ供シ肉ノ需要ハ甚タ少シ豚ハ成育甚タ速ニシテ内肉ノ需要極メテ多ク價亦廉ナラサルヲ以テ城市ニ在リテハ燒鍋、豆腐房ニシテ廢物タル酒粕又ハ豆腐粕ヲ以テ之ヲ飼養セサルモノナク其最モ多キハ一家數百頭ニ上ルモノアリ村落ニ在リテハ各家概ネ二、三頭乃至百頭ヲ養ヒ何レモ雜草厨房ノ殘物若クハ高粱等ヲ飼料トセリ其數多キモノハ家族一名之カ監視ニ當リ晝間ハ野外ニ放牧シテ雜草等ヲ食マシメ冬季ヲ除ク外ハ他ノ飼料ヲ與フルコト甚タ稀ナリ山羊及綿羊ハ當地方ニ於テハ專ラ冬衣用ノ毛皮ヲ得ムカ爲ニ飼養スルモノ多ク採毛用トシテ飼育スルモノナシ其肉ハ稍臭味ヲ有スレト豚肉ヲ一切口ニセサル回教徒等之ヲ購ヒ需

要甚多シ農家ノ副業トシテ之ヲ飼フモノハ一家ニシテ四五十頭乃至數百頭ヲ有セリ
 以上ハ當地方ニ於ケル飼畜ノ梗概ナリ由是觀之當地方ノ牧畜業ハ一般ニ甚タ不振ノ現況ニアリ加之年々當地方ニ不足スル
 畜産ハ蒙古方面ヨリ輸入ヲ仰キツツアリテ斯業トシテハ茲ニ特記スヘキモノナキカ如シト雖モ當地方ハ新開地ナルカ爲メ
 廣大ナル放牧恰適地到處ニ散在シ牧草亦豐富ナレハ近時農民ノ副業トシテ家畜ノ飼育ヲ爲スノ風漸ク盛ナルニ至リタレハ
 斯業ノ將來ハ甚タ曠目ニ値スルモノアリ

尙當地方カ牧畜經營上至便ナル所以ヲ擧ケレハ放牧地域内ニ一ノ急峻ナキコト蜿々タル緩傾斜ノ丘陵及其溪谷ニ流ルル河
 流カ自然ノ大牧場ヲ形成シ居レルコト牧場恰適地ノ地價甚タ安價ナルコト等是ナリ

ロ、家畜及家禽ノ數

當地方ニ於ケル家畜及家禽ノ數ニ就テハ何等據ルヘキ正確ノ統計ナシト雖モ參考ノ爲メ比較的正確ト信スヘキモノヲ擧
 レハ左ノ如シ

種類	海龍縣	柳河縣	輝南縣	合計
馬	一九、五〇〇	二二、八七〇	一三、〇〇〇	五五、三七〇
牛	一四、三〇〇	二〇、六五〇	一、〇二〇	三五、九七〇
豚	一四二、九五〇	二二八、七二〇	九五、三〇〇	四六六、九七〇
山羊	三、四〇〇	二、九五〇	二、五〇〇	八、八五〇
綿羊	二、七〇〇	三、一五〇	一、八〇〇	七、六五〇
騾	二二、八〇〇	二二、九〇〇	一五、〇〇〇	四九、七〇〇
驢	九八〇	一、六二〇	五九〇	三、一九〇
雞	二五八、〇〇〇	三三二、五〇〇	一六八、〇〇〇	七四八、五〇〇

種類	單位	價格
家鴨	三四、〇〇〇	二六、〇〇〇
鷄	一、二五〇	一、二〇〇
鴉	四七、六〇〇	一〇七、六〇〇
鳥	一、六七〇	四、一二〇

ハ、家畜及家禽ノ相場

當地方ニ於ケル家畜及家禽ノ相場左ノ如シ

種類	單位	價格
乘馬	一頭ニ付	八〇〇 <small>小作元</small> 内外
上	同	四〇〇同
中	同	一五〇同
下	同	四〇〇同
鞍馬	同	七〇同
上	同	一五〇同
中	同	四〇〇同
下	同	四〇〇同
牛	同	四〇〇同
上	同	二〇〇同
中	同	二〇〇同
下	同	一〇〇—一二〇同
豚	同	八〇同
中	同	六〇同
下	同	一五—四〇同
山羊	同	二〇—五〇同
山羊	同	二〇—五〇同

第十一章 林業

第一節 森林地域及面積

ノ屠殺ニ當リテモ檢疫ヲ爲スカ如キコトナシシテ市中ニ公然賣買セラルル其類ヤハハハ平澤清
 第一節 森林地域及面積
 森林地域上ヨリ當地方ヲ觀ル時ハ之ヲ四區ニ分ツコトヲ得即チ第一區ハ柳河縣ノ南部龍崗山脈ノ地帶第二區ハ輝南縣城ヲ
 東西ニ貫ク一線ヲ劃シ其線ヨリ以北一帶ノ地トシ第三區ハ輝南縣城ヨリ南方及東南ニ向ヒ半徑五六十里ノ半圓ヲ畫キタル
 地帶トシ第四區ハ之ヨリ外方濛江縣界ニ至ル幅二三十里長百支里ノ弧形ノ地帶トス第一區及第二區ハ原下南滿鐵道ニ供
 需シタル鐵道枕木用ノ美材ニ乏シカラサリシカ伐採ノ結果今ヤ其大部分ハ滿洲南部一帶ニ看ルカ如キ裸山ト化セリ第三區
 ニハ各種ノ針葉樹殘存スレトモ美材ハ概ネ伐リ盡サレ唯採炭又ハ燒炭用ノ雜木アルニ過キス第四區ニハ樹齡約二百年長
 數十尺乃至百尺目通直徑一尺七八寸乃至二尺四五寸ノ針葉樹密生ス我一町歩ニ樹數約百本材積約四百尺³アリ
 山林面積ニ就テハ完全ナル統計ナケレハ精確ナル數字ヲ知ルコトハ困難ナレトモ上陳スル所ニ由リ之ヲ稽フレハ二千方支
 里ト見テ大差ナカラム一方支里ハ我約三十町歩ニ相當スルヲ以テ合計六萬町歩ニ互ルヘク而シテ一町歩ノ材積ヲ四百尺³
 トスレハ總計二千四百萬³トス前清末支那官憲ノ調査ニ依レハ五萬六千五百畝(支那畝)爲リ之ヲ我地積ニ換算スレバ我
 約三千町歩ト爲リ甚タ少ニ失スルカ如シ然レモ其數ニモ我材積ノ全材積ノ半數ニ至ルカ如キハハハ六月日
 第二節 樹種
 樹木ノ名稱ニハ土名多ク或ハ土地ニ依リ其名稱ヲ異ニシ又ハ同一地ニ於テモ數箇ノ名稱アリテ頗ル混雜ヲ極ム又我國ニ於
 テモ同一樹ニ數箇ノ名稱アレハ比較的廣ク行ハルモノヲ探レリ

今科名、葉狀、花形等植物學的の説明ハ之ヲ略シ唯木質及用途ニ就テ簡單ナル説明ヲ爲サム先ツ針葉樹ヨリ始ムレハ

(1) 落葉松 土名 元松 又ハ黃花松和名落葉松、又ハ唐松

材質稍堅硬ナレトモ工作ヲ施シ易ク且水濕ニ堪ユ建築、板材、家具、棺材、電柱、枕木等ニ賞用セラル當地方ニハ本材
 最モ多シ

(2) 海松 土名果松又ハ紅松、和名朝鮮五葉
 材質稍輕軟ナレトモ耐久性ニ富ミ木膚ハ白地ニ微紅ヲ帶ヒテ美麗ナリ落葉松ニ次キテ多ク用途モ落葉松ト略同シ種子ハ
 頗ル大ニシテ食用ニ供セラル

(3) 杜松 土名 崩松(彭松トモ書ク)又ハ香柏松 和名檜又ハ杜

材質堅硬ニシテ水濕ニ耐エ木膚黃色ナリ棺材トシテ後ニ述フル梓榆ト並ヒ賞セラレ價格不廉ナリ又裝飾トシテ使用セラ
 ル

(4) 赤松 土名 油松 和名赤松又ハ雌松

材質堅硬ニシテ弾力性アリ建築土工ニ賞用セラル脂ヨリハ松香油ヲ製シ得ト云フ

(5) 一位(石櫛)土名 赤柏松、和名一位又ハアララギ

材質堅硬ニシテ弾力性アリ木理緻密ニシテ建築家具、小細工ニ賞用セラル

(6) 杉松 土名 杉松 和名 樅

右三種ハ土人總稱シテ杉松ト謂フ材質用途等略相似タリ即チ材質輕軟木理粗ナレトモ工作容易且産額最モ多ケレハ建築

(7) 白松 土名 白松又ハ臭松 和名白松會

板材、家具、棺材等ニ使用セラル又屈撓シ易ケレハ籬、障子、框、菓子箱等ニ製作セラル又製紙原料及燐寸ノ軸木用ニ

(8) 唐檜 土名 魚鱗松、和名唐檜

次ニ潤葉樹ヲ舉クレハ

(9) 山胡桃 土名 胡桃楸又ハ楸子 和名 山胡桃

材質堅硬木理緻密ニシテ彎曲屈折ノ患ナク家屋建築用殊ニ柱トシテ賞用セラル又枕木、器具、小作工等ニ製作セラル

(10) 黄蘗 土名 黄蘗礫(土人ハ黄蘗) 和名 黄蘗

材質堅密、木膚淡黄色ヲ呈シテ頗ル美麗ナリ建築材料トシテハ山胡桃ニ次テ賞用セラル其他枕木器具小細工、裝飾物トシテ用ヒラレ内皮ハ染料トナリ外皮ハホルクニ作ラレ用途甚タ廣シ

(11) 山栲 土名 猪木(本草綱目ニ猪栲呼稱トアリ栲ハ俗ニ臭栲ト云フ故土人栲ヲ猪木ト呼フニ至リタルナラム但土人ハ栲未ト書ス猪ト書ス栲ハ同音ナリ) 又ハ青栲柳(栲ハ山) 和名 山栲又ハ栲若クハ楸

材質稍堅密、木理美麗ナリ車輻、機械、器具、農具材トス

(12) 椴 土名 椴木 和名 科木又ハ菩提樹

材質輕軟、木膚白色ニシテ美麗ナリ甚タ工作シ易ク挽材及家具材トシテ適當ナリ内皮ハ強韌ニシテ繩ニ拘ヒ大麻ト稱シ

麻ノ代用品トス又製紙原料及燐寸ノ軸木用ニ適スト云フ

(13) 檜 土名 小柏欄 和名 檜

(13) 檜 土名 大柏欄 和名 檜

(13) 檜 土名 大柏欄 和名 檜

右二種ヲ土人總稱シテ柞木ト呼フ材質堅硬ニシテ耐久性アリ龜裂ヲ生スル患アレトモ、一度蒸シテ用ユレハ可ナリ器具、車軸、枕木等ニ製セラル皮ハ染料トナル柞蠶ハ即チ此小樹林ニ放養ス

(15) 山楡 土名 楡木 和名 春楡

材質稍堅密、車軸、扣、椅子等ニ製セラル

(16) 赤楡 土名 楚楸又ハ楡木 和名 斧新又ハ楡木

材質頗ル堅強緻密ニシテ車軸及小細工ニ最モ賞用セラル

(17) 刺楸 土名 刺楸 茨萩トモ書ク 和名 針楸

材質稍堅硬桐材ノ如キ木理ト白キ光澤ト有シ甚タ美麗ナリ裝飾農具等ニ用ヒテ楸ノ實マシキハ楸ノ實トシテ

(18) 水楡 土名 水楡子又ハ水東瓜(瓜トモ言フ) 和名 水楡

材質稍堅硬、楡材、水楡、枕木等ニ用ヒラル本材ハ乾キ難シ乾ケハ龜裂ヲ生シ易シ故ニ楸ノ實トシテ

(19) 梓楡 土名 駿馬(駿馬故明トアリ土人ハ駿馬又ハ駿馬ト書ス) 和名 新スナラ又ハ

材質堅密、木膚白色ニ微紅ヲ帶ヒテ光澤ヲ有シ甚タ美麗ナリ楡材トシテ最モ賞用セラル價格亦極メテ高價ナリ又小細工ニ用ヒタル

(20) 柳(相柳) 土名 水柳(土人ハ水柳) 和名 シホガ柳

材質堅硬、木理稍粗ナレトモ頗ル強韌ナレハ車軸、器具、枕木材トス又我國ノ柳ノ代用品トシテ用ヒラレ價格不廉ナリ

(21) 三葉楸 土名 梓筋子(東京通志ニ「平式ナラハ」ト云フ) 和名 三葉楸

材質堅硬、用途ハ前者ト略相同シ車軸トシテ最モ賞用セラル

(22) 樺 土名 樺木 和名 白樺

材質堅硬、樹木多ケレトモ工作ヲ施シ難ケレハ燒炭用ノ外用途少シ

(23) 楊 土名 楊木 和名 ドロヤナギ

材質柔軟ニシテ木理粗大、廉價ナル柱、器具、水杓、粗等ニ作ラル但シ楊ニハ白楊、青楊及棉楊ノ三種アリ白楊最モ良

ク燐寸ノ軸木トシテ賞用セラル青楊之ニ次キ棉楊ノ如キハ殆ト用ヲ爲サス

(24) 槐 土名 槐木 和名 槐

材質稍堅密、器具材トス

地方別	主ナル材木取引商	店主	資本金	一ヶ年取引高
檜	南	萬源棧	一〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
同	同	董名山	八、〇〇〇	九五、〇〇〇
同	同	趙坤元	一〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
同	同	牛德貴	四、〇〇〇	五〇、〇〇〇
同	同	高木舖	三、〇〇〇	四五、〇〇〇
同	同	東來盛	三、〇〇〇	三三、〇〇〇
同	同	馬木廠	二、五〇〇	二五、〇〇〇
同	同	龍興成	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇
同	同	振興長	一、二〇〇	一五、〇〇〇

輝南ヨリ材木ヲ移出セムトスルモノハ國稅タル出產木稅及縣稅タル木指ヲ徵收セラル又此等稅金ノ外林務局ヨリ種々ノ手數料ヲ徵收セラルルコトハ次項伐木規則中ニ述フルカ如シ

(1) 出產木稅 材木ノ移出ニ對シ賦課スル稅金ナリ從來木植稅ト稱シ從量稅ナリシヲ民國六年十二月改正シ從價稅ト爲シタリ稅率ハ從價六分六厘トス

木稅ハ一種ノ出產稅ナレハ他ニ移出スル時一度木稅ヲ納付スルモ仕向地ニ到著ノ上更ニ銷場稅ヲ徵收セラル木稅章程ヲ譯出スレハ左ノ如シ

第一條 本省木稅ハ產地ノ價格ハ從ヒ六分六厘ヲ徵收ス外城ニ移出シタル時ハ銷場稅ニ照シテ徵收ス孰レモ別ニ附加稅

十分ノ一ヲ徵收ス

第二條 凡ソ材木ハ產地ニ於テ發荷ノ時最寄ノ稅捐局又分局ニ出頭シ納稅スヘシ再移出ノ時ハ護照ヲ下附シ最後ノ仕向地ニ到著シタル時再ヒ銷場稅ヲ徵收ス

第三條 木稅票ハ出產銷場兩種ニ分チ各四聯ニ印シ辦法ハ統稅章程ニ同シ

第四條 凡ソ產地ニ於テ納稅済ノ材木ハ分割移出ノ時ハ護照ヲ下附シ原稅票ヲ局ニ納メ其旨記載スヘシ

第五條 木稅票ハ一枚ニ付票費トシテ銅元二枚護照ハ一枚ニ付照費トシテ銅元四林途中ニ於テ檢査スレハ驗票費トシテ銅一枚ヲ徵收ス

第六條 材木移出者未ダ稅金ヲ完納セズ護照ヲ所持セザル時ハ仕向地ニ於テ出產銷場兩稅ヲ併徵ス

第七條 木稅脫漏處罰辦法ハ統稅章程ノ規則ヲ準用ス

第八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

(2) 木指 警察費教育費等ノ如キ地方費ニ充ツル爲メ輝南縣ニ於テ徵收スル地方稅大抵木指ハ前掲木稅ト異リ從量稅トシテ材木及薪ヲ馬車又ハ棧ニ積載シテ縣城ヲ出ツル賦課徵收ス其ノ稅率ハ左ノ如シ

(一) 馬車一車付(四套車トハ牛、馬、騾、驢ノ孰レナリ) 四套以上 小洋三角 三套以下 小洋二角 二套以下 小洋一角 一套以下 小洋五分

(二) 棧ハ大小ヲ問ハス積載ノ種類ヲ論セス凡テ一臺ニ付小洋半角トス

第六節 伐木規則

現行伐木規則ハ民國元年二月二十一日公布同三年八月十一日修正セラル東三省固有林發放規則ナルカ人民ハ從來正當

ノ手續ヲ經スシテ擅ニ伐採シテ來リタルヲ以テ該規則ハ殆ト空文ニ歸セリ仍テ民國七年奉天省長ハ興京、通化、臨江、柳河、輝南及撫松ノ七縣ニ國有林管理費徵收處ナルモノヲ設ケテ該規則ヲ勵行セシムルコトトセリ但シ輝南、撫松兩縣ニハ未タ之カ勵行ヲ見ス

東三省國有林發放規則第十一條ニ依レバ伐木者ハ伐木ニ對シ山分票費及木植票費各從價百分ノ八合計百分ノ十六ノ票費(本許可證下)ヲ納付セサルヘカラサルモ支那政府ハ人民積年ノ慣習ヲ斟酌シ暫ク人民ノ負擔ヲ減輕シ山分及木植票費ニ代フ(附手數料)ルニ國有林管理費ナルモノ從價百分ノ八即チ山分及木植票費ノ半額ヲ徵收スルコトトセリ本管理費ハ左揭規則中ニモ規定スルカ如ク税金(國稅タル出產木稅)及縣稅タル未捐ノ外ニ徵收スルモノナリ茲ニ注意ヲ要スヘキハ支那官憲ノ土地拂下ニ對スル解釋ニシテ土地拂下ハ其上ニアル立木ヲ含マズ立木ハ依然國有ニ屬スルモノトシテ其ノ伐採ニ對シ管理費ヲ徵スルコト是ナリ
國有林拂下規則ニハ出願勘測手數料及保證金等ニ就キ其タ繁雜ナル手續ヲ規定ス現令此規則ニ依リテ正式ニ農商部ノ許可ヲ受ケタルモノニハ柳河縣ニ柳河縣探植有限公司ナルモノアレトモ資本金ノ都合ニ依リ未タ著手セズ現今ノ伐木者ハ皆正式ノ手續ヲ履マス唯税金及管理費ヲ納付シテ伐木シ官憲モ亦默許シ居レリ

東三省國有林拂下規則

- 第一條 東三省ノ國有林ハ國家ノ直接經營スルモノヲ除外ノ外之ヲ拂下タラシムル得中ニ其ノ對價スルハ銀票費イハ前項ノ拂下ハ材木ニ限ル
- 第二條 森林ノ拂下ヲ受ケル者ハ中華民國人民又ハ中華民國ノ法律ニ因リテ成立シタル法人ニ限ル但シ國際合同ニシテ特別ノ規定アルモノハ滿期以前ニ繼續スレハ有效トス
- 第三條 既ニ拂下ケタル森林ト雖モ農商部方國土保安ニ關係シ又ハ公用ニ供スル必要アリト認メタ時該拂下ノ收用スルコトヲ得但シ收用ニヨリ拂受人ノ現ニ享有スル利益ヲ損スルコトヲ得ス

前項收用手續ハ農商部ヨリ別ニ之ヲ定ム

第四條 森林拂受人ハ拂受書ヲ作り林務局ニ出願スヘシ林務局ハ勘測ノ上農商部ニ報告シ農商部證議許可ス
別ニ定ムル地方ニ在リテハ縣知事又ハ其他ノ林務機關ニ出願スヘシ縣知事等ハ勘測ノ上道臺及巡按使ヲ經テ農商部ニ報告スヘシ

第五條 拂受書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 拂受人ノ姓名、原籍、住所、職業及年齡
- 二 資本金額
- 三 拂受地ノ境界、面積並地圖
- 四 拂受區内ノ樹木株數、種類、大小及長短
- 五 採伐ノ計畫
- 六 運輸ノ設備
- 七 製材ノ設備
- 第六條 拂受人カ法人ナル時ハ其拂受書ニハ前條各項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 發起人及支配人ノ姓名、原籍、住所、職業及年齡
 - 二 會社ノ定款
- 第七條 拂受人ハ拂受書提出ノ時勘測費ヲ納付スヘシ前項ノ勘測費ハ十方里ニ付百元トシ一方里ヲ増ス毎ニ一元ヲ遞加ス

林務局又ハ縣知事勘測ノ上農商部ニ詳報シ農商部ニ於テ其拂下ヲ許可セサル時ハ既納勘測費ノ半額ヲ還付スルコトヲ得
第八條 森林ノ拂下ヲ受ケムトスルモノ農商部ノ許可ヲ得タル時ハ農商部ヨリ許可證ヲ下附ス

拂受人許可證ヲ領收シタル時ハ許可證費五十元ヲ納付スヘシ

許可證ノ有効期間ハ二十年ヲ以テ限ト爲ス但シ毎年一回許可證ノ檢閲ヲ受クヘシ檢閲手数料ハ十元トス

第九條 拂受人許可證ヲ領收シタル時ハ拂受林區十方里毎ニ保證金二百元ヲ納付スヘシ

第十條 拂受人材木ヲ山元ヨリ出シ商埠ニ至リタルトキハ伐木ノ數量、種類、大小及長短ヲ書類ヲ以テ當該官廳ニ報告シ檢査ヲ受クヘシ

第十一條 拂受人材木ヲ出賣スル時ハ稅則ニ依リ木稅ヲ納付スル外材木ノ市價ノ百分ノ八ツツノ山分及木極票費ヲ納付スヘシ

第十二條 拂受ハ一回ニ二百方里ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 拂受人拂受森林ヲ他人ニ轉讓スル時ハ第四條ノ規定ニ依リ農商部ノ許可ヲ受ケ竝ニ轉讓許可證費五十元ヲ納付スヘシ

前項ノ場合ニハ其保證金モ亦同時ニ移轉ス又轉讓後ノ年限ハ原拂受ノ年限ヲ繼續ス

第十四條 凡テ採伐後ノ林地ハ當該官廳カ開墾シ能ハスト認ムルモノヲ除クノ外該拂受人開墾セムト欲セハ國有荒地承繼條例ニ依リ出願シ許可ヲ受クヘシ

第十五條 拂受人材木ヲ採伐スル時ハ一畝毎ニ樹木二株乃至三株ヲ存留スヘシ

前項ノ存留樹木ハ直徑一尺以上ニシテ樹幹正直ナルモノニ限ル

第十六條 拂受人ハ拂受區域内ノ境界牌及古蹟標等保護ノ責ヲ負フヘシ

第十七條 從前ノ各官廳カ發シタル所ノ許可證ハ本規則公布後六箇月以内ニ出願シ農商部ノ許可證ニ取換フヘシ若シ期限ヲ經過スレハ無効トス

附 則

第十八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

中華民國三年八月八日

國有林管理費徵收規則

第一章 總 則

第一條 本規則ハ東三省國有林拂下規則第十一條ニ規定スル國有林山分票費ノ規定ニ依リ竝ニ奉天省ノ情形ヲ參酌シ推行ニ便ニスル目的ヲ以テ改メテ國有林管理費ト爲シ當分百分ノ八ニ按シテ之ヲ徵收ス

第二章 徵收機關

第二條 林務局ハ林區ノ管理拂下又ハ國有林管理費徵收ノ目的ヲ以テ駐在所ヲ設ク未タ駐在所ヲ設ケサル地ニ在リテハ徵收事務ヲ各稅捐局ニ委託シテ之ヲ辦理スルコトヲ得

前項ノ駐在所ノ經費ハ別ニ豫算ヲ定メ國有林管理費ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ代徵稅局ニ對シテハ徵收額ニ應シ當分報酬トシテ其割ヲ給シ收入豫算確定後更ニ其報酬額ヲ定ム

第三條 林區ノ面積ハ二百方里ニ滿ツルモノハ一駐在所ヲ設ケ二百方里未滿ノモノハ最寄ノ駐在所ヲ兼管ス但シ兼管不能ノ地ニ一駐所ヲ專設スルコトヲ得

第三章 徵收方法

第四條 國有林採伐者ニ對シ林務局駐在所ハ本規則第一條ニヨリ管理費百分ノ八ヲ徵收シ其ノ地ノ市價ニ依リ大洋ヲ以テ完納セシム大洋ハ奉天通用ノ一二ノ割(小洋一元二角ヲ以テ大洋一元ニ換算スル意)ヲ以テ換算シテ徵收ス

第五條 國有林採伐者管理費納付ノ時伐採シタル材木ノ種類、數量及移出先ヲ當該駐在所ニ明細報告スヘシ當該駐在所

ハ報告書ト對照査閱スヘシ

第六條 採伐人所報ノ材木種類數量及移出先ハ査閱シ報告書ト材木ト符合セハ管理費ヲ徵收シ五聯ノ單據ニ記入シ一聯ハ截取シテ採伐人ニ交付シ完納ノ證ト爲シ餘ノ四聯ハ林務局ニ送付シ夫々保存又ハ轉送ス

前項餘ス所ノ四聯ハ一聯ハ農商部ニ送付シ一聯ハ財政廳ニ送付シ一聯ハ林務局ニ保存シ一聯ハ駐在所ニ保存ス

第七條 反則偷漏シ管理費ノ完納ヲ免ルル者ハ檢舉シテ其反則偷漏部分ニ付キ夫々輕重ヲ酌定シ管理費ヲ完納セシムル外納付スヘキ管理費額ノ二倍以上五倍以上ノ罰金ニ處ス前項科スル所ノ罰金ハ四割ハ國庫ノ收入ト爲シ六割ハ夫々賞與ト爲ス

第八條 駐在所ニハ左ノ簿冊ヲ置クヘシ

一 區内木材 種類及數量簿

二 伐木檢査簿

三 管理費收入簿

四 聯票收發簿

第九條 駐在所及代徵ノ稅局ハ毎月月末ニ徵收額ヲ款項聯票ト共ニ明細簿ヲ作製シ林務局ニ送付シ査閱ヲ受クヘシ駐在所ノ經費及代徵稅局ノ報酬ハ毎月收入金内ヨリ控除シテ殘額ヲ送付スルコトヲ得

第四章 獎 罰

第十條 徵收機關職員ハ探偵 勤惰及收入額ノ多寡ヲ以テ其ノ成績ヲ査定シ成績優良收入暢旺ナル者ニ對シテハ年末ニ林務局ヨリ獎金ヲ酌給シ俸給等級ヲ加進ス

第十一條 辨理弛惰ナル者ハ撤換シ私ヲ營ミテ弊害ヲ舞生シ又公金ヲ虧欠スル者ハ金額ヲ追徵スル外司法官廳ニ引渡シ之ヲ懲罰ス

第五章 附 則

第十二條 本規則ニシテ若シ未タ事宜ヲ盡ササルモノアラハ林務局ヨリ隨時農商部及省長ニ上申シテ修改ス

第十三條 本規則ハ農商部及省長ニ上申シテ裁可ヲ得テ公布施行ス

第七節 伐木業者及勞銀

先ツ伐木業者ニ就テ述ヘムニ伐木業者ヲ木廠ト言フ木廠ハ商店ト同シク資本家及勞働者ヨリ成ル資本家ヲ財東ト謂フハ商店ニ異ナル所ナシ而シテ商店ノ支配人若クハ番頭ニ當タルモノヲ把頭ト謂フ把頭ノ下ニ勞働者タル木把(夫)竝ニ材木ノ集運ヲ掌ル趕把犁(犁)又ハ趕車(馬車)アリ

木廠ノ大ナルモノハ二三團ノ木把ヲ有スレトモ少ナルモノハ一團ヲ月スルノミ其一團ヲ一遣鋸ト稱シ各道鋸ニ把頭ヲ置キ木廠ニシテ數道鋸ヲ有スルモノニハ大把頭ヲ置ク

把頭ニ二種アリ廠内ニ留マリテ庶務ヲ處理スル者ヲ家把頭ト稱シ現地 出テテ木把ヲ指揮監督シ伐木集材ニ掌執スル者ヲ山把頭ト稱ス

廠内ニハ家把頭ノ外管賬的又ハ先生ト稱シ簿記ヲ掌ル者竝大師夫(コック)及小厮(ボーイ)等アリ吉林省及鴨綠江沿岸ニ在リテハ流筏ヲ爲スヲ以テ一遣鋸ノ人員ハ普通二十人以上ナレトモ當地方ニ在リテハ流筏ナク規模小ニシテ把頭以下十人内外ニ過キス

次ニ營務者ノ報酬ハ如何ニシテ定ムルヤ利益分配制度賃銀制度及請負制度竝ニ此等ヲ併用スルモノアリ其賃銀制ニ依ルモノ左ノ如シ

把頭	一箇月	小洋十元乃至三十元
管賬的	同	七八元

大	師	夫	同	同	五六元
小	斫	同	同	同	四五元
木	把	一日	同	同	四角(食事付)

木把ニハ月工ト言ヒ月拂ノモノアリ冬勞金ト言ヒ一期拂ノモノアリ木把ノ賃銀ハ從來食事ヲ給シテ一日二角半ナリシカ近來物價高騰及苦力ノ不足ノ爲メ賃銀モ亦騰貴シ今年ハ四角給セサレハ備入困難ナリト云フ

趕把犁的及趕車のニハ日備ノモノアレトモ多クハ請負トス日備ノ者ノ賃銀ハ木把ト同シ請負ニハ牛馬、棧又ハ車ハ普通趕把犁的又趕車のニ持參セシム馬糧ハ本廠ヨリ給スルモノト然ラサルモノトアリ此等ハ凡テ契約ニ依ル但シ最初契約シタル時手附金トシテ幾分ヲ前拂スルヲ以テ慣習ト爲ス

伐木方法

最後ニ作業方法ヲ述ヘムニ毎年結氷後即チ十一月下旬把頭ハ木把ヲ率ヒ食糧及器具ヲ携ヘテ入山シ窩棚ト稱スル小屋ヲ作リ伐木ヲ始ム伐木ニ就テハ何等森林行政上ノ取締規則ヲ遵守セス又公益ノ觀念ニ乏シキ木把ハ將來永遠ノ利益ヲ顧慮セス唯自己ノ便且利トスルモノヲ擇伐スルカ爲メ良材ハ忽チニシテ盡ク彼等ハ又砍伐中樹木ニ些少ノ腐蝕等ヲ發見セハ之ヲ放棄スルカ爲メ可惜大木累ヒトシテ路傍ニ腐朽シツツアリト云フ

樹木砍伐點ハ地上四五尺ノ處ニシテ袖夫ノ立姿ノ儘作業ニ便利ナル箇處ヲ擇ヒ先ツ斧ヲ砍入シ兼ネテ鋸ヲ用フ採伐樹木ハ略現地ニ於テ造材ヲ了ス

作業能力ハ從業者二人ニテ一日ノ工程大溝梁(即チ末口直徑一尺一寸)七八本ナリト云フ

出山ハ解氷後即チ三月下旬以前トス但シ大北岳ニ在リテハ夏季河流スルモノアルコトハ前述ノ如シ

第十二章 漁業並獵業

第一節 漁業

輝發江及其支流伊統河、三統河等ニ産スル魚族ハ鮭、鯉、鯽、草根魚、白魚、鮓等ニシテ何レモ相當ノ漁獲アリト雖モ農民ノ閑時ニ漁撈スルノミナレハ漁業トシテ特ニ記載スヘキモノナシ

漁獲高ノ最モ多キハ鮓及白魚トス鮓ハ普通一斤ニ二三尾其大ナルモノハ一斤一尾ニシテ甚タ美味ナリ白魚ハ我國ノ鮓ニ似テ稍大亦美味ナリ小洋二角乃至三角鮓ハ三統河ニ多ク棲息スレト願ルモノナシ

冬季間ヲ除キ日々朝陽鎮市場ニ出スルモノ平均二百斤海龍市場ニ出スルモノ亦百斤許ナルカ尙沿河ノ農民ハ自漁自食シ支那人魚食ノ風漸ク盛ナリ漁具トシテ釣針、水泡網(四手網ノ類)、打水魚(投網)ヲ用フ

第二節 獵業

當地方ハ原ト清廷ノ圍場タリシ地ニシテ封禁開放後モ鳥獸ノ棲息スルモノ甚タ多ク絶好ノ狩獵地トシテ人口ニ膾炙セラレタルカ近年山林ノ伐採原野ノ開拓ニヨリテ海龍附近ハ野獸甚タ減少シタレト結氷季及解氷季ニハ輝發江ノ本流及支流亦雁鴨ヲ以テ河面ヲ埋ムルノ壯觀ヲ呈シ獵獲少ナカラス

龍崗山脈一帶深山密林ニハ狐、狸、獺、海龍、野猪、鹿、駒子、兔、鳩、山鳩等甚タ多シト雖モ此地方ハ匪賊ノ巢窟ニシテ近寄ル可カラス爲メニ獵業ハ甚タ不振ニシテ農民ノ閑時ニ狩獵スル高又限リアリ

第十三章 金融

當地方ニ流通スル貨幣ハ種類甚タ多ク其取扱甚タ煩瑣ナルヲ以テ金融狀態ノ概念ヲ得ントセハ先ツ此等通貨ノ種類並ニ其

市場ニ於ケル流通狀況ニ就テ尋ネ漸次金融機關並ニ其活動狀況ニ及ホスヲ便利トス

第一節 通貨ノ種類

當地方ニ現今流通シツアル貨幣ヲ分テ銀行券私帖硬貨ノ三種ト爲スコトヲ得當地方ニハ原ト大正四年末迄硬貨（銀貨並ニ銅元）盛ニ流通シ大商買ノ發行スル私帖及信用手形ノ如キモノハ甚タ僅少ナリシカ奉天票ノ侵入ト硬貨ト比價騰貴トニ依リ銀貨ハ市場ヨリ全ク姿ヲ消シ補助貨タル銅元ノミ殘存シ奉天票ト私帖ノ流通ニヨリ大商買ノ發行スル信用手形亦漸次市場ヨリ其跡ヲ絶チ今ヤ一般取引ハ凡テ紙幣若クハ私帖ニ依リテ行ハレツツアリ

第二節 銅元

銅元ハ大正五年迄銀貨一角ニ付十二枚替ナリシモ前記比價騰貴ト補助貨拂底トニヨリ漸次騰貴シテ大正七正末十枚替トナリ昨春九枚替トナレリ

第三節 奉天票及其流通額

奉天票ノ種類ハ奉天商業銀行奉天興業銀行、東三省官銀號並中國交通兩銀行奉天支店ヨリ發行スル大洋票（原ト此等諸行ノ小洋票モ流通シタルカ本年三月以來其行使ヲ禁止セラレ市場ニ現ハレサルニ至レリ）ニシテ其流通額ハ管下海龍、柳河、輝南三縣ヲ通シテ凡ソ三十萬元ヲ下ラサル見込ナリ

第四節 私帖發行ノ由來並金融概況

奉天商業銀行、奉天興業銀行並東三省官銀號ニ於テハ數年前當地方各都市ニ分行ヲ設置シ爾來地方ノ金融ヲ計リツツアレ

ト何レモ地方商店ノ一室ヲ借受ケテ營業シ居レル有様ニテ其規模甚タ狭少未タ金融市場ニ充分ノ勢力ヲ振フニ至ラス然ルニ當地方ハ滿洲特產物ノ大宗タル大豆高粱ノ產地ニシテ近時開原縣ノ發達ト共ニ此等特產物ノ該縣ニ出廻ルモノ頗ニ増加シ往時ヨリ莫大ナリシ其產額ハ悉ク該縣ニ吸收セラレテ尙供給不足ヲ訴フルニ至リ穀價ノ騰貴ト共ニ農民ハ穀ヲ捌口良キ大豆高粱ノ耕耘ニ從事スル趨勢ヲ馴致セリ於茲乎無資力ナル農民ノ多キ當地方ニ於テハ此等農民ニ對シテ農業資金ヲ供給スルト共ニ他面此等無資産ノ農家ヲ相手一苛酷ノ條件ヲ以テ不正ノ暴利ヲ斂メツツアル奸商驅逐シ健實ナル資本主ヲ求メ農民ヲシテ之ト取引セシムル必要ヲ生シ特產物ノ取引ヲ爲ス商店ニハ奉天票トノ兌換ヲ條件トシテ私帖ノ發行ヲ許シタレハ多年來信用手形ヲ發行シ來レル大商買等ハ農民ニ對スル放貸若クハ此トノ取引ニ供センカ爲メ爭テ私帖ノ發行ヲ出題セリ

私帖ノ發行ニ關シテハ原ト相當ノ規定アリテ各自其資本金ノ幾割カニ相當スル額ヲ發行額ト定メ之カ兌換ノ準備金トシテ又幾分ノ金積ヲ積立テ以テ商務會ノ保證ヲ受ケ然ル後所轄地方官ノ認可ヲ經ルコトトナリ居ルカ綱紀自ラ廢弛シテ準備金ヲ積立置クモノ殆トナキニ至リ當局當初ノ目的即チ農民ニ對スル放貸若クハ之トノ取引ニ供用スヘシトイフ主旨ハ疎セテ私帖ハ公然一般取引ニ使用セララルルニ至リタレハ商工業者ハ皆競フテ之ヲ發行スルニ至リ大正五年新ニ私帖發行ヲ禁止セララルル迄海龍縣内ノミニテ其發行者百二戸ニ達シ柳河輝南兩縣ヲ合スル時ハ無慮二百七八十戸ニ上リ其雜駁紊亂實ニ滿洲第一ト稱セラレタリ而カモ彼等發行者ハ農作物出廻季若クハ歲末等ノ如キ金融逼迫時ニ際シテハ勢ヒ制限外ノ濫發ヲ爲スモノ多ク此等カ萬一取付ニ遭フ時ハ商務會ハ豫ネテ保證ヲ與ヘ居ル關係上其取付額僅少ナル時ハ幾分ノ救済ヲ爲スヘキヲ以テ一時ヲ纏縫スルコトヲ得ヘキモ其額大ナル時ハ救済タル商務會其者モ亦私帖ノ發行者ナレハ自家ノ警戒ヲ嚴ニシテ他ヲ顧ミサレハ特產物取引期ニ當リ一二ノ倒産者ヲ出スハ殆ト毎年ノ例トナリ居レリ且又發行私帖ニ對スル準備金ニ至リテハ官憲ノ取締令ヲ無視シテ之カ積立ヲ爲スモノ稀ナルコト前述ノ通りナレハ市場ハ唯其發行者ノ聲望ヲ信用シ兌換ノ可能ヲ認ムルノミニテ流通セシメ居ルニ過キス加之此等私帖ハ紙質甚タ粗惡ナルフミナラヌ圖案印刷共ニ拙劣ナルカ爲メ

賈造物甚多ク當該私帖ノ流通區域ハ發行者在住ノ地ヲ出テサルカ如キ有様ナレハ自然ノ結果トシテ私帖ヲ奉天票ト兌換
 スルニ當リテハ多大ノ開ヲ生スルハ勿論奉天票ハ此等私帖ノ兌換本位貨トシテ一般ノ信用厚キカ爲メ所謂「グレシアン」ノ
 法則ニヨリテ市面ニ流通スル高極メテ少ク前記奉天分銀行ニ於テスラ多クハ兌換要求額ノ二割ヨリ以上ハ奉天票ヲ出サス
 強ヒテ全額ノ兌換ヲ要求スル時ハ要求金額ニ對シテ二割ノ開ヲ取ルヲ普通トセリ此カ爲メ大小百般ノ取引ハ殆ト全部私帖ニ
 依ラサルヘカラス如斯ニシテ濫發セラレタル私帖ハ單ニ發行者ニ對スル莫然タル信用ト多年來ノ習慣ニ押サレテ市場ニ流
 通スルノミナレハ一朝經濟界ノ動搖ニ遭フ時ハ全然一片ノ反古ニ歸シ損害ハ結局此間ノ事情ニ疎キ地方農民ノ負フ所トナ
 リ其弊害測リ知ル可ラサルモノアリ

第五節 私立銀行及其帖子發行高

於是乎官邊ニ於テハ一面各地商務會員等ヲシテ地方私立銀行ヲ起シ之ニ(帖子トイヒ私帖トイフハ結局同一ノモノナリサ
 レト本項ヲ記述スルニ當リ銀行ノ發行スル私帖ト商買ノ發行スル私帖トヲ區別センカ爲メ假ニ銀行ノ發行スルモノヲ帖子
 ト稱ヘリ詳細ノ説明ニ就テハ本章末段ノ備考ヲ参照スヘシ)發行權ヲ附與シ他面私帖ヲ發行セル商買ニ飭令シテ一定期間
 内ニ其發行額ヲ全部回收セシメテ金融ノ圓滑ヲ計リ併セテ通貨ノ統一ニ資セントセリ大正五年ヨリ七年ニ互リ三縣下ニ創
 設セラレタル農工銀行、商務銀號ノ類是ナリ左ニ其資本金、帖子發行高ヲ掲ク

所在地	名稱	創立年月	資本金	帖子發行高
海龍	海龍農工銀行	大正五年八月	一〇〇,〇〇〇 <small>小幣元</small>	一〇〇,〇〇〇 <small>小幣元</small>
北山	海龍山城鎮農工銀號	大正五年十月	一〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
朝陽	朝陽鎮商務銀號	大正五年十一月	八〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
柳河	柳河縣農工銀號	大正五年三月	八〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇

同	柳河縣商務銀號	大正五年三月	一〇〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇
樣子	樣子哨商務銀號	大正六年一月	七,〇〇〇	一二〇,〇〇〇
輝南	輝南商濟銀號	大正六年二月	三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
同	輝南公濟銀號	大正七年九月	七〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇
合計			五六七,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇

右私立銀行ヨリ發行セル帖子ノ種類ハ概ネ半角、一角、二角、五角ノ毛票及一圓ノ銀票ニシテ小洋本位トシ奉天票ト兌換
 スルコト私帖ニ同シ大正五年以來此等銀行ニヨリ三縣下ノ市場ニ放下セラレタル約百五十萬元ノ帖子カ在來ノ私帖ト入り
 替リテ亂脈極マレル當地方通貨ヲ幾分統一シタルコトハ事實ナリトス

第六節 官邊ノ通貨調節命令

當地方官憲ハ右等私立銀行ノ成立ト同時ニ前述ノ通り私帖ニハ相當ノ猶豫期間ヲ與ヘテ一律回收ヲ命ジ之ニ背クモノハ嚴
 罰ニ處スヘキ旨ヲ布告シタリ然ルニ半トシテ抜クヘカラサル慣習ト歴史トニ支配セラレ多年來流通シ來レル此等濫發私帖
 ハ常套の官命ニテ遽ニ回收セラルヘクモアラス其後モ依然市場ヨリ跡ヲ絶タサリキ現ニ海龍ニ於テハ大正六年二月前記回
 收命令公示ト同時ニ各商買ノ私帖既發高ヨリ其三割ヲ扣除シタル額ヲ以テ暫定發行高ト定メ商務會ヲシテ保證セシメタル
 上此等新私帖ニ對シテ一々「海龍縣驗訖」ナル檢印ヲ押捺シ檢印ナキモノノ行使ヲ禁止セリ然ルニ該制限以前ノ既發私帖
 ニシテ檢印ナキモノモ其後依然回收サレシテ新舊相共ニ今尙流通シ居レリ、如斯狀態ノ下ニ現在尙私帖ヲ發行スル商家
 海龍ノミニテモ左記十二戸ニ達シ其發行高合計五、六萬元ヲ下ラサル見込ナリ

天增當	永興當	公議興	福臨長
東興湧	鴻興合	富源長	日興增

更ニ又前記地方私立銀行ノ株主ハ主トシテ土地ノ商務會員ニシテ自ラ私帖ヲ發行シ居ルモノ多キカ爲メ一方ニ於テ未タ同收シ了ラサル私帖ヲ背負ヒ居ル上更ニ銀行へ出資セルモノナレハ銀行ノ基礎薄弱ナルハ言ヲ俟タス、其一例ヲ舉クレハ朝陽鎮商務銀號ノ如キハ創立(大正五年十一月)以來八一〇元ノ資本金ニ對シ四分ノ一拂込ヲ了セシノミニテ約三四十萬元ノ帖子ヲ發行シタルカ爲メ窮地ニ陥リシヨリ其後拂込額ヲ増加シテ五萬元トナシ奉天殖邊銀行分行ヲ行内ニ設置シテ以テ繼續ニ勉メシモ大正七年來殖邊銀行ハ行員ノ紙幣製造等カ累ヲ爲シテ閉店スルニ至リタレハ該銀號ハ再ヒ取付ニ會ヒ破綻ニ類シタル揚句我朝鮮銀行開原支店ヨリ借款セリト言ヒ振シ一時ヲ糊塗シタルモ爾來該行ノ信用ハ地ヲ拂ヒ閉店同様ノ狀態ニアリ

又様子哨商務銀號ノ如キモ發行帖子十二萬元ニ對シ準備金僅六千餘元ニ過キサル實情暴露シテ取付ニ遭ハントシ輝南公濟銀號亦再度ノ取付ニ遭ヒテ破綻ニ類シツツアル等ト揭私立諸銀行ノ帖子ハ實質ニ於テ在來ノ私帖ト何等選フ所ナク金融狀態改善、私帖取締ノ爲メ官憲ニ於テ支持シテ帖子ヲ發行セシメタル當初ノ目的ハ全然裏切ラレタルモノト言フヘク一度經濟界ノ恐慌襲來センカ其結果タルキ實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ

第七節 他地方帖子ノ流通

海龍縣知事ハ客年三月他縣帖子ヲ驅除センカ爲メ其行使ヲ禁シ各地商務會ヲシテ同月二十八日ヨリ一週内ニ縣内流通ノ他縣帖子ヲ自縣ノモノト引換ヘシメト試ミタルニ時恰モ殖邊銀行券及長春、吉黑等ノ刻印ヲ附シタル中國、交通兩銀行券ヲ不通トナレル矢先ニテ市面ノ金融極度ニ引緊リ居タレハ地方民ノ取付者殺到シテ交換ヲ強要シ遂ニ目的ヲ果サス該命令ハ布告後二兩日ヲ出テスシテ空文ニ歸シ他縣帖子ハ其後モ盛ニ流通セルヨリ昨午六月初旬東豐縣帖子ノ行使ヲ禁止スル旨布告セルカ是亦何等ノ效力ナク該帖子ハ依然市場ノ取引ニ用ヒラレ居レリ

由是觀之根本的ニ通貨ノ統一ヲ計ラントセハ先ツ自縣内私立銀行ノ規模ヲ擴張シテ其資本金ニ大増額ヲ爲シ以テ帖子ノ發行高ヲ多カラシムルヨリ外ナキニ他縣ノ帖子ニ對シ徒ニ拘束的命令ヲ兩下セシムルカ如キハ結局市場ヲ攪擾シテ私帖帖子濫發ノ弊ヲ助長シ延テハ空文ノ告示ヲ出シテ徒ニ官ノ威信ヲ傷クルニ過キササルヘシ參考ノ爲メ海龍地方ニ流通スル他縣帖子ヲ示セハ左ノ如シ

- 柳河縣農工銀號
- 柳河縣商務銀號
- 柳河縣商務銀號
- 柳河縣商務銀號
- 輝南縣 輝南商濟銀號
- 輝南縣 輝南公濟銀號
- 西安縣 西安商務銀號
- 東豐縣 東平鎮農務銀號
- 備考 △印ヲ附セルハ私帖
- 東豐縣 東豐沙河鎮南市銀號
- 東豐縣 東豐廣濟銀號
- 東豐縣 東豐農工銀行
- 東豐縣 東豐實業銀號
- 東豐縣 東豐商務銀號
- 東豐縣 東豐惠濟當
- 東豐縣 東豐小柳河源泉達

第八節 奉天諸銀行出張所及其營業成績

奉天ニ於ケル諸銀行中當地方ニ出張所ヲ有スルハ奉天商業、興業ノ二行及東三省官銀號ノ三者ナルカ後者ハ其設立比較的古キカ爲メ他行ノ出張所ヲ有セサル與地ニモ分行ヲ設ケテ營業ヲ爲シ居レリ
從來當地方ニ於ケル金融機關トシテハ此等諸銀行出張所ノ外ニ私設當舖アリ兩者相併テ當地方ノ金融ヲ執掌セリ
當地方ニ於ケル銀行ノ主ナル業務ハ爲替取組ニシテ貸出預金等之ニ次ケリ爲替取組ノ方法ニ關スル説明ハ後項ニ讓ルコトトシ本項ニ於テハ貸出及預金ニ就テノミ記述スヘシ

當地方貨幣ノ雜駁ナルコト竝此等帖子ヲ發行セル私立諸銀行ノ信用程度ニ就テハ前二項ニ於テ記述セルカ如キ状態ナレハ當地方住民ニシテ預金ヲ爲サントスルモノハ何レモ此等私立銀行ニ比シ信用厚キ奉天諸銀行分行ニ口座ヲ設ク但當地方住民ハ未タ充分銀行ヲ利用スル途ヲ知ラス金錢ヲ地下ニ埋藏シ或ハ確實ナル商家ニ無利息ニテ保管ヲ依頼スルモノ尠ナカラサルカ爲メ銀行ノ預金高ハ甚タ尠シ

大正八年中ニ於ケル右三行出張所ノ預金扱高左ノ如シ

銀行名及地名		海龍	北山城子	柳河	輝南
東三省官銀號分行		六二、〇〇〇元	三三、〇〇〇元	一八、五〇〇元	一三、〇〇〇元
奉天商業銀行分行		四五、〇〇〇	一七、〇〇〇		
奉天興業銀行分行		五四、〇〇〇	一〇、〇〇〇		
合 計		一六一、〇〇〇	五九、〇〇〇	一八、五〇〇	一三、〇〇〇

備考 右表中長點ヲ附シタルハ分行ノ設置セラレサルヲ示ス

右諸行ニ於ケル預金利子左ノ如シ

東三省官銀號		定期預金	當座預金
		每月 八厘	同 四厘
奉天商業銀行		同上	同上
奉天興業銀行		同上	同上

此等銀行ノ貸出、方法及利率ハ各地方ノ狀況ニ依リ一律ナラサレト定期貸出信用貸出ノ二ニ區別セラレ平均月一步四厘乃至一步六厘ノ利子ヲ附シ居レリ今客年中ニ於ケル各行ノ貸出成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

銀行名及地名		海龍	北山城子	柳河	輝南
東三省官銀號分行		一九七、〇〇〇元	二〇〇、〇〇〇元	九〇、〇〇〇元	四五、〇〇〇元
奉天商業銀行分行		一五七、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇		
奉天興業銀行分行		一八九、八〇〇	二五〇、〇〇〇		
合 計		五四四、三〇〇	六五〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	四五、〇〇〇

備考 右表中長點ヲ附シタルハ分行ノ設置セラレサルヲ示ス

金利左ノ如シ

東三省官銀號		擔保	信用	利率
		每月 一分六厘	每月 一分八厘	
奉天商業銀行		擔保 每月 一分六厘乃至一分八厘	信用 每月 一分七、八厘	
奉天興業銀行		擔保 每月 一分七厘	信用 每月 一分八厘乃至二分	

第九節 地方私立銀行及其營業成績

地方私立銀行開設ノ由來並其帖子發行等ニ就テハ(五)私立銀行及其帖子發行ノ項ニ於テ詳述シ置ケルカ如シ此等諸銀行中海龍農工銀行ヲ除キ他ハ何レモ兌換準備金ノ數倍ニ相當スル私帖ヲ濫發シ居レル結果殆ト地方民ノ信用ナク將ニ破産ニ頻シタルモノノミナリト云フモ蓋シ過言ニアラサルヘシ

然ルニ此等銀行カ依然トシテ其營業ノ繼續シツツアル所以ノモノハ(一)當地方ハ邊僻ナル新開地ナルカ爲メ人口ニ比シ通

貨ノ流通額至テ少ク從テ其發行私帖ハ市面大小百散ノ取引ニ使用セラレツアルコト、(二)官憲ハ當初私帖取締ノ方便トシテ此等銀行ニ帖子發行ヲ許可シタル行掛上萬一此等銀行力濫發帖子ノ回收ヲ了セスシテ倒産スルカ如キコトアラム乎地方金融界ヲ茶毒スルコト其帖子濫發ヨリ更ニ甚シキモノアルヘキヲ以テ官憲ニ於テハ極力之レカ支持ヲ努メツアルコトト認メラル

此等銀行ノ營業種目ハ一般銀行ト同様貸付、預金及爲替其主ナルモノナルカ其營業成績ハ一般ニ甚タ振ハス殊ニ預金扱高ノ如キ皆無ナル向モアリ是レ銀行ノ信用力前途ノ通り一般地方民ニ認メラレサルニ依ルコト勿論ナレト地方民ノ銀行ヲ利用シテ利殖ノ途ヲ講スルヲ知ラサルモノ多キコト、銀行自身亦帖子濫發ノ結果其整理ニ追ハレ専心其業務ニ從事スルコト能ハサル事情ノ下ニアルコト等モ亦其原因タラサルヘカラス試ニ大正八年中ニ於ケル此等銀行ノ貸出成績並預金扱高ヲ舉クレハ左ノ如シ

銀行名	貸出高	滞貨	回收不可能	預金扱高	備考
海龍農工銀行	一五二、五〇〇	二〇、〇〇〇	ナシ	一五〇、〇〇〇	帖資子發行高(左)
山城鎮農工銀行	二五、〇〇〇	八、〇〇〇	ナシ	一五〇、〇〇〇	帖資子發行高(左)
朝陽鎮商務銀號	一八、〇〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇	ナシ	六〇、〇〇〇
柳河縣農工銀號	五、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	二二、〇〇〇	八八、〇〇〇
柳河縣商務銀號	一一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一四、五〇〇	一一〇、〇〇〇
様子哨商務銀號	六、〇〇〇	七、〇〇〇	二、五〇〇	二五、〇〇〇	一二〇、〇〇〇

輝南商濟銀號	一五、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	五、五〇〇	一三〇、〇〇〇
輝南公濟銀號	一三、〇〇〇	八、〇〇〇	三、六〇〇	ナシ	一五〇、〇〇〇
合計	二四六、五〇〇	六二、〇〇〇	一九、一〇〇	二七六、五〇〇	八七〇、〇〇〇

備考 海龍農工銀行ハ相當兌換準備金ヲ有スルカ爲メ地方民ノ信用厚ク其營業成績ノ如キモ他ノ私立銀行ニ比シテ頭地ヲ拔ケルヲ見ル

右諸銀行ノ金利左ノ如シ

銀行名	擔保付	貸金	利子	信用	定期預金	預金	利子	當座預金
海龍農工銀行	每月二分五厘	每月三分	每月三分	每月八厘	每月四厘	每月四厘		
山城鎮農工銀號	同 二分五厘	同 三分	同 三分	同 八厘	同 四厘	同 四厘		
朝陽鎮商務銀號	同 一分五厘	同 二分	同 二分	同 一分	同 五厘	同 五厘		
柳河縣農工銀號	同 二分五厘	同 二分八厘	同 二分八厘	同 一分二厘	同 六厘	同 六厘		
柳河縣商務銀號	同 二分五厘	同 二分八厘	同 二分八厘	同 一分二厘	同 六厘	同 六厘		
様子哨商務銀號	同 二分四厘	同 二分八厘	同 二分八厘	同 一分	同 五厘	同 五厘		
輝南商濟銀號	同 二分五厘	同 三分	同 三分	同 八厘	同 四厘	同 四厘		
輝南公濟銀號	同 二分五厘	同 三分	同 三分	同 八厘	同 四厘	同 四厘		

私立銀行ノ爲替取組高並取組ノ方法等ニ就テハ爲替ノ項參照

質屋業及其營業成績

當地方金融機關トシテ當舖(質屋業)カ銀行ト相併テ重要ナル地位ヲ占メ居レルコトハ前述ノ如シ
當舖ハ最モ簡易ナル支那在來ノ金融機關ニシテ小額ナル金融ノ途ヲ得ルニ至便ナルカ爲メ中流以下ノ細民ニトリテハ必要
缺クヘカラサル機關ナリ

現在當地方ニ於ケル質商カ市場ニ供給セル金額ヲ通算スルニ凡ソ九十五萬元ヲ下ラサル見込ナリ
各地ニ於ケル當舖ノ主ナル質入主ハ小商人及農民ナリ

當舖ノ利子及期限ハ各地ニ様ナラサレト利子ハ普通月二分乃至三分ニシテ十二箇月乃至二十四箇月ヲ以テ期限ト爲スモノ
多シ貸出額ノ限度ハ概ネ質物時價ノ十分ノ四内外ナリ

入質物ハ衣服類七割ヲ占メ金銀、首飾、諸器物ニ割五分有價證券五分ヲ占ム當票(質札)ニハ危險物、軍器及彈藥ハ質受セ
サルコト虫損鼠咬ハ質入主ノ負擔ナルコト等ヲ記載スルモノ多シ

當舖ノ經營ニハ比較的大資本ヲ要スレト其利益ハ他業ニ比シテ僅少ナリ然レ共業務確實ナルカ爲メ着質ナル資本主ハ好
テ斯業ニ投資ス

當舖ハ個人經營ニ依ルモノアレト合資組織ノモノ多シ資本ノ額ハ四五萬元ヲ普通トス資本主ハ概ネ地方ノ紳商ニシテ別ニ
經理人ヲ置キテ營業セシム使用人ノ數ハ普通三、四名ヨリ五、六名ニシテ多キハ十數名ナルアリ即チ管賬、管包、管錢、管
飾是ナリ

管賬ハ支配人ニシテ店務ヲ管理シ管包ハ質物價格ノ勘定ヲ掌ル此二者ハ時ニ兼務スル場合モアリ此等ノ下ニ櫃夥アリ寫票
(質札ノ書入)、捲包(質物ノ包裝掛牌(札附)等ノ事ヲ爲シ其下ニ學徒ナルモノヲ置ク櫃夥以下ハ管賬ノ任意雇傭スル所ナ
リ

今當地方質屋業ノ營業成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

地 方 別 一箇年貸出高 一箇年受戻高 一箇年流質高

海 龍	公 議 當	三二、二〇〇	二四、九六〇	二、四九六
同	天 增 當	二六、四〇〇	二一、二二〇	二、一一二
同	福 德 當	二七、六〇〇	二一、五〇〇	二、七六〇
同	鴻 興 當	二〇、四〇〇	一六、三三〇	二、〇四〇
同	公 成 當	一六、八〇〇	一三、六〇〇	一、四五二
同	福 興 當	二一、六〇〇	一六、二〇〇	一、九四四
同	裕 厚 當	一八、五〇〇	一〇、二九五	一、三五〇
海 龍	七 戶 當	一六二、五〇〇	一二二、九九五	一四、一五四
北 山 城 子	公 濟 當	八七、〇〇〇	七五、三〇〇	四、三五〇
同	慶 源 當	五一、〇〇〇	二九、〇〇〇	三、六〇〇
同	萬 利 當	五五、五〇〇	四八、三八七	二、九四一
同	東 興 當	三三、五〇〇	二七、六〇〇	一、七八七
同	福 豐 當	三三、二九〇	二六、三〇〇	二、一六〇
同	源 裕 當	二〇、四〇〇	一四、二八〇	一、二八五
北 山 城 子	六 戶 當	二七九、六九〇	二二〇、八六七	一六、二二三
朝 陽 鎮	富 敬 當	三〇、〇〇〇	二二、五〇〇	二、一五〇
同	合 發 當	一三、〇〇〇	一〇、〇一〇	七、五〇
同	永 義 當	一〇、一五〇	七、六五〇	七、四九
同	魁 盛 當	八、〇〇〇	六、二四〇	四、三〇

朝陽鎮	計	四	戶	六一、一五〇	四六、四〇〇	四、〇七九
輝南	商	四	戶	三五、〇〇〇	二六、九五〇	一、七五〇
同	萬	億	當	二五、〇〇〇	一九、五〇〇	一、三二五
同	公	濟	當	三八、五〇〇	三〇、四二〇	一、九二五
同	公	支	當	一七、〇〇〇	一三、〇九〇	九一八
同	公	正	當	二二、〇〇〇	一七、九五〇	一、三八〇
輝南	計	五	戶	一三八、五〇〇	一〇七、九一〇	七、二九八
柳河	同	濟	當	二七、〇〇〇	二一、三三〇	一、四三五
柳河	積	成	當	二七、〇〇〇	二一、三三〇	一、四三五
孤山子	積	成	當	三六、〇〇〇	二七、〇〇〇	一、八七〇
孤山子	積	成	當	三六、〇〇〇	二七、〇〇〇	一、八七〇
樣子	公	債	當	三五、二九〇	二七、三〇〇	二、二八〇
樣子	公	債	當	三五、二九〇	二七、三〇〇	二、二八〇
合計				七四〇、一三〇	五七三、八〇二	四七、三三九

第十節 爲替機關

當地方ニ於ケル爲替機關トシテハ銀行及郵便局ノ外ニ爲替取扱店(布正雜貨商當備又ハ販賣等ニテ他人ノ依頼ニヨリ手數料ヲ取メテ)ナリ
 今順次此等ノ爲替取扱振ニ就テ記述セム
 一、銀行

爲替ノ種類 銀行ノ取扱フ爲替ノ種類ハ普通送金爲替(票滙)、電信爲替(電滙)、逆爲替(倒滙)、荷爲替(押滙)、等ナルカ就中
 普通送金爲替ハ殆ト其爲替取組高ノ金額ヲ占メ居レリ電信爲替ハ取引關係密接ナル二三商人間ニ利用セララルル外一般ニ之
 ヲ利用スルモノ尠少ナリ逆爲替及荷爲替ニ至リテハ銀行ノ爲替取扱種目中ニハ掲ケラレ居レト恐ラク當地方住民中ニハ其
 名スラ辨ヘサルモノ多カルヘク運輸交通ノ不便ニシテ商取引ノ方法發達セサル當地方ニ於テハ實際上之ヲ利用スルハ却テ
 煩瑣且危險ヲ免レサルノミナラス當地方經濟上ノ情況ハ未タ必スシモ之ヲ必要トセサルカ爲メ其取扱額ハ殆ト皆無ナリ
 爲替ノ建値 原ト當地方爲替業者ハ總テ營口ニ於ケル滿鐵銀相場ヲ基本トセル銀建ヲ用ヒ居タルカ數年來現銀次第ニ市場
 ヲリ跡ヲ絶チタレハ奉天票ヲ基本トスル外ナキニ至リ昨今銀行ニ於ケル爲替建値ハ奉天大洋及小洋ノミトナレリ從テ爲替
 取組ノ範圍ハ東三省内ニ限ラレ東三省以外ノ地ニ送金セムト欲スルモノハ營口、奉天、開原等ノ地ニ於ケル聯合取引店ヲ
 介シテ墨銀建ノ爲替ニ組替フルカ然ラサレハ當地ニ於テ高率ノ打歩(墨銀對小洋票ノ)ト手數料トヲ拂ヒテ郵便爲替ヲ取
 組マサルヘカラス
 爲替ノ取組 爲替取組ノ方法手續等ハ頗ル簡單ニシテ未タ舊態ヲ脱セス銀行ハ依頼ニヨリ一葉ノ滙票(爲替券)ヲ調製シ
 テ之ヲ依頼人ニ交付スルニ過キス依頼人ハ取組依頼ニ當リ亦何等手續ヲ要スルコトナク唯口頭ヲ以テ金額要項等ヲ告ケレ
 ハ足レリ
 銀行カ依頼ニ應シ爲替ヲ取組ム場合依頼人カ平素取引關係アルモノナルカ又ハ相當信用アルモノナル時ハ貸方ニ記帳シ預
 金ヲ有スルモノナルトキハ之ヨリ振替ヘ取引ノ關係預金共ニナキモノナル時ハ現金ヲ拂込マシム
 銀行ノ取扱フ爲替ノ多クハ商家ノ資金及商品代廻送ニ供セラルルモノ多キカ如ク東三省官銀號ノ如キ特種銀行出張所取扱
 額ノ約半ハ各廳賦稅ノ送金ニアルモノノ如シ
 滙票ノ様式左ノ如シ

○字第〇號今在海龍收過

匯

①名下大洋奉票〇〇元〇〇整

議明匯至②見票遲期〇天照數清付不悞此據〇〇寶號

照付無保不付

票

中華民國〇年〇月〇日

發行銀行印

遺失作廢官
款洋商不付

匯票

譯文

送金爲券第〇號

今般何某殿ヨリ大洋奉天票何元何角也當地ニ於テ領收ノ上貴地宛送金請合申候間一覽後〇日ヲ經テ御拂渡相成度候也

注意

一、現銀御受取ニハ保證人ノ記名捺印ヲ要スルコト

一、本票遺失ノ場合ハ再發行セサルヘキコト

一、公金ノ滙票ハ外國商人ニ對シテハ現銀ヲ拂渡ササルヘキコト

中華民國

年月日

何銀

行

何銀行御中

右様式ニ據レハ滙票ハ總テ一覽後拂ナルカ如キモ實際ニ於テハ然ラス唯送金額ノ大ナル場合宛銀行ニ於テ一時ニ拂渡ス
コト能ハサルコトアルヲ以テ用紙ニハ「遲期〇天」云々ト印刷シアレト小額ノ送金ニハ日限ヲ記入セサルヲ普通トセリ

爲替手数料 爲替手数料ハ仕向地ノ遠近交通ノ便否乃至商況ノ如何ニヨリ常ニ變動シ普通五日乃至七日毎ニ相場ヲ建ツ當
地方ハ交通甚タ不便ナルカ爲メ概シテ爲替料ハ高率ニシテ平時百圓ニ付五六元内外ナレト今春ノ如キハ銀價暴騰ノ結果支
那商人ノ輸入品ニ對スル購買力著シク増大シ沿線地方へ送金セムトスルモノ異常ニ多キヲ加ヘタルト投機的ニ金票ノ買占
ヲ爲スモノ嗽出シタルトニヨリ爲替資金不足ヲ告ケ各銀行共滿鐵沿線地方宛爲替ニハ百元ニ付二十五元ト云フ高率ノ手數
料ヲ徴セリ
爲替扱高 最近當業者ニ就テ當館ノ調査シタル所ニ據レハ當地方諸銀行ニ於テ一箇年間ニ他地方へ取組ム爲替ノ額ハ左ノ
如シ

地方別	銀行名	一箇年間爲替取組高
海龍	海龍縣農工銀行	二〇、〇〇〇
同	東三省官銀號分行	一一〇、〇〇〇
同	奉天興業銀行分行	三〇、〇〇〇
同	奉天商業銀行分行	二〇、〇〇〇
北	海龍山城鎮農工銀號	六〇、〇〇〇
同	東三省官銀號分行	一〇〇、〇〇〇
同	奉天興業銀行分行	四六〇、〇〇〇
同	奉天商業銀行分行	五八、〇〇〇

朝陽鎮	朝陽鎮商務銀號	九〇、〇〇〇
輝南	輝南公濟銀號	三、〇〇〇
輝南	輝南商濟銀號	五、〇〇〇
同	東三省官銀號分行	三〇、〇〇〇
同	樣子哨商務銀號	二五、〇〇〇
柳河	柳河縣農工銀行	五、〇〇〇
同	柳河縣商務銀號	八、〇〇〇
同	東三省官銀號分行	六五、〇〇〇

為替取組先 為替取組先ハ根主トシテ開原、營口、奉天、鐵嶺等ニシテ取組額ノ歩合ハ凡ソ開原五營口二、奉天一・五、鐵嶺一、其他〇・五ノ割ト見テ大差ナカラム

郵便局

支那郵便局ニ於テ取扱フ為替ハ普通送金為替ノミニシテ小為替電信為替等ハ之ヲ取扱ハス當地方ニ於ケル為替取扱局(支那ニ於テハ為替ノ取扱ヲ為シ得ル郵便局ハ一、二等局ニ限ラレ居レト特ニ政府ノ指定シタル三等局ハ之ヲ取扱フ為スコトヲ得)左ノ如シ

局名	所在地	等級
海龍	海龍縣	二等局
北山城子	北山城子	同
朝陽鎮	朝陽鎮	同
輝南	輝南縣	同

右各局ニ於ケル為替取扱高ハ一箇月大約五百元乃至八百元(約半ハ奉天省内)ニシテ其額甚タ多カラサルハ郵便局ニ於テ取扱フ貨幣カ銀子、洋銀及銀元票ニ限ラレ居ル關係上私帖ノミ市面ニ流通スルコト多キ當地方ニ於テハ拂込所要ノ貨幣ヲ得ルニ難ク多額ノ送金ヲ為サムトスルモノハ何レモ此ノ不便ヲ避ケテ地方商家ニ送金ヲ託スル(私帖ヲ以テ拂込ム)カ爲ニ外ナラス

為替ノ取組先ハ支那内地重要都邑ノ殆ト全部ヲ網羅セリ從テ為替料モ取組先ノ交通ノ便否ニヨリ差等ヲ設ケ之ヲ甲乙二類ニ分テリ

甲類料金ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル地方宛送金ニ適用シ乙類料金ハ鐵道船舶ノ便ナキ地方宛送金ニ對シテ適用ス東三省内各地宛為替料ハ甲類毎大洋一弗ニ付三仙乙類同四仙ト爲ス東三省以外ノ各地方宛料金ハ甲類三仙乃至六仙乙類四仙乃至八仙ト爲ス(貨率ハ交通部ノ規定シタルモノニ依ル)

又支那ニ於テハ為替取扱局ヲ甲乙二種ニ分チ各局相互ノ間ニ受拂スル為替ノ額ニ制限ヲ附セリ即チ鐵道船舶ノ便アル地方ニ於ケル為替取扱局ヲ甲種局ト爲シ鐵道船舶ノ便ナキ地方ニ於ケル為替取扱局ヲ乙種局ト爲シ甲種局間ニ受拂スル為替ノ額ハ為替券一葉ニ付百弗ヲ限トシ一名ノ振出額ヲ一日三葉計三百弗以内ト定メ甲種局ト乙種局トノ間又ハ乙種局相互ノ間ニ受拂スル為替ノ額ハ一葉ニ付五十弗以内トシ同一人ノ振出額ヲ一日二葉計百弗迄ト規定セリ

振出人カ拂渡證明(發銀同帖)ヲ要スル時ハ為替券一葉ニ付手数料五仙ヲ徴收ス

為替券ノ受取期限ハ振出(發出)ノ日ヨリ六箇月以内トス此期限ヲ經過シテ受取ラサル時ハ振出人ハ六箇月以内ニ振出局ヨリ為替金額ノ外ニ為替料半額ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得此期限ヲ經過シテ拂戻ヲ請求セサル時ハ無効トス

當地方商店ト滿鐵沿線地方商店トノ輸出入品取引ハ取引慣習ノ項ニ於テ記述シ置ケルカ如ク從來延滞定ニヨルモノ多ク取引當事者ハ決算期(布疋雜貨取引ノ項參照)ニ於テ輸出入品(輸出特産物及輸入布疋雜貨類)ノ代價ヲ相殺シ尙殘高ノ送金ヲ要スルモノアル時ハ爲替又ハ現送ニヨリ決済シ居常ノ取引ニ一々送金ヲ爲スモノ稀ナリシカ當地方ノ開發ニ伴ヒ沿線地方トノ取引關係ハ漸次緊密ノ度ヲ加ヘ決算期ニ於テノ送金ヲ爲スモノ慣習ハ漸ク廢レムトシ日常取引ノ勘定ニ銀行及郵政局ヲ利用スルモノ多キニ至レリ然ルニ此等機關ノ爲替取扱ニハ極メテ不便ノ點多ク剩ヘ多額ノ手數料ヲ要スルヲ以テ沿線地方ト密接ナル取引關係ヲ有シ常ニ相互ノ間ニ營業資金、利益金、商品代等ノ送金ヲ必要トスル當地方布疋雜貨店、當舖及糧棧等ノ諸商店ハ何レモ沿線樞要ノ取引地ニ支店代理店又ハ聯號取引先ヲ置キ一面之ニ輸入品ト輸出品トノ決済ヲ委託シ以テ自店關係ノ送金受拂ノ煩ヲ省クト共ニ他而餘款(決済ノ結果送金ヲ要スル差引段高)ニ對シテ小商店等ノ送金依頼ニ應ジ沿線地方トノ間ノ送金ヲ引受ケ爲替券ヲ發行スルニ至レリ

此等商店ノ間ニ受拂スル依頼爲替ハ相互ノ便宜上ヨリスルモノナレハ數年前迄ハ爲替振出ノ場合ニハ送金依頼者ニ對シ此等商店ハ送金額百分ノ一、二ニ相當スル報酬ヲ贈與スルカ然ラサレハ無料ニテ爲替券ヲ發行シ差當リ送金ヲ必要トセル場合ニ於テノミ僅ニ送金額ニ對スル百分ノ一内外ノ手數料ヲ收メ居タリ

然ルニ當地方ニ於テハ最近數年來現銀ノ拂底ニ次テ奉天票ノ市面流通額激減シタレハ沿線地方ノ優良紙幣ニ對シテ當地方不換紙幣ヲ以テ爲替金ノ拂込ヲ受クル時ハ勢ヒ各商店ハ損失ヲ免レサルニ至リ沿線地方宛爲替料ハ漸騰シテ今百元ニ付四五元ト云フ高率ノ相場ヲ示セリ沿線地方ヨリ當地方宛ノ爲替取組ニハ今尙料金ヲ要セサル場合多シ是レ沿線地方ニ於テハ奉天票ヲ以テ拂込メルヲ當地方ニ於テハ私帖ヲ以テ拂渡スヲ以テナリ

爲替手數料ハ上述ノ如ク平素百元ニ付四五元ノ間ヲ上下シツツアリト雖モ商況ノ如何ニヨリテハ往々騰貴シテ百元ニ付二十元以上ノ高値ヲ示スコト尠ナカラス(前項銀行爲替手數料參照)爲替取扱商ノ發行スル爲替券ノ様式並ニ其爲替取組ノ方

法ニ就テハ銀行ニ於ケルモノト大差ナキヲ以テ之ヲ略ス當地方各商店ヨリ滿鐵沿線地方宛ニ取組ム爲替ノ額ニ就テ最近當館ノ調査シタル所ニ據レハ海龍北山城子及朝陽鎮ノ三地ニ於テ殆ト其全額ヲ占メ居レリ是レ右三地ハ特産物ノ取引地ニシテ輸入布疋雜貨ノ集散市場タル關係上當地方金融取引ノ樞軸タル地位ニ在ルヲ以テナリ

爲替取組先ハ開原、奉天、營口、鐵嶺等ニシテ開原三、奉天三、營口三、鐵嶺一ノ割ト見テ大差ナカラム當地方爲替取扱商店名左ノ如シ(備考金額ハ大正八年中各商店ニ於テ他ノ依頼ニヨリ沿線地方宛取組ミタル爲替ノ額ヲ示セリ)

地方別	商店名	備考
海龍	裕厚昌	八〇、〇〇〇
同	天增當	二〇、〇〇〇
同	福興魁	一五、〇〇〇
同	東興成	二七、〇〇〇
同	富源長	二二、〇〇〇
同	永興東	九、〇〇〇
同	日興增	一〇、〇〇〇
同	鴻興合	一一、〇〇〇
海龍計	八、〇〇〇	一八七、〇〇〇
北山城子	萬金豐	一五〇、〇〇〇
同	源恒店	一〇〇、〇〇〇
同	慶源當	七五、〇〇〇
同	慶源成	三五、〇〇〇

四、燈下不附 白晝ノミ兌換ニ應ストノ意ナリ
ロ、吊文ノ計算

當地方ニ於テハ穀物ノ建値ニ今猶舊慣ニ從ヒ吊文ヲ用フルモノアリ(官帖ハ數年來市場ニ其跡ヲ絶チタレト多年來之ニヨリテ取引ヲ爲シ來レル農民ハ吊文建ヲ使用スルヲ便利トモルモノノ如シ)吊文ハ七吊ヲ以テ小洋一元ニ計算ス一吊文ハ制錢(厘錢)百六十箇ニシテ其計算法左ノ如シ

一成(十文)制錢	二箇	二成	制錢	三箇	三成	制錢	五箇
四成	同	六箇	五成	同	八箇	六成	同
七成	同	十一箇	八成	同	十三箇	九成	同
十成	同	十六箇	一吊千文同	百六十箇			

第十四章 度量衡

凡ソ支那ノ制度中度量衡ノ如ク區々參差ナルモノ亦尠カルヘシ其單位標準ノ各地方毎ニ異ナレハ勿論同一地方内ニ於テスラ尙其單位ハ多種多樣ニ互リ取引上窒礙スルコト甚シコレカ爲メ支那政府ハ民國四年一月七日法律第一號ヲ以テ權度法ヲ公布シ且該法律附則ニ其施行期日ハ別ニ大總統敕令ヲ以テ公布スヘキ旨規定シタレトモ未タ其實施ヲ見ルニ至ラス
右權度法ハ營造尺庫平制ヲ採用シ長度ハ營造尺ヲ以テ單位ト爲シ重量ハ庫平一兩ヲ以テ單位ト爲セリ
營造尺ハ遠ク魯班及唐時代ヨリ傳ハリタルモノニシテ明及清時代ニ工部カ營造ニ採用シタルニヨリ此稱アリ現今木匠ノ用フル曲尺ハ即チ之ニ依レリ
權度法營造尺一尺ヲ〇、三二米突ト定ム尺ニハ營造尺ノ外ニ裁尺、布尺等アリ

庫平トハ支那政府及北方諸省ニ通用スル天平ナリ官廳ノ金錢出納ニハ皆該天平ヲ用フ權度法ノ定ムル所ニ據レハ一兩ハ三七瓦三〇一ナリ平ニハ庫平ノ外漕平及關平アリ漕平トハ江南諸省ニ通用スル平ニシテ一兩ハ庫平ノ九錢八分ニ當ル關平トハ海關ノ收稅ニ用フル平ニシテ一兩ハ庫平ノ一兩ト千分ノ十三即チ五八三、グレン」又ハ三七瓦七八三一二五ニ當ル
權度法ニハ尙容量ハ升ヲ以テ其單位ト爲シ一升ヲ三一六立方寸(營造)ト定メ地積ハ畝ヲ以テ其單位ト爲シ一畝ヲ六〇〇〇方尺ト定ムト規定セリ

第一節 度

イ、長度ノ單位及計算

長度ハ尺ヲ以テ單位ト爲シ五尺ヲ一步、十尺(即チ)ヲ一丈、百尺(即チ)ヲ一引、千八百尺(即チ百八十丈)ヲ一里ト爲ス尺以下ヲ寸分釐毫ト定メタルコト我尺度法ニ同シ

當地方ニ使用セラルル尺度ニ三種アリ木尺、裁尺、布尺是ナリ

(1)木尺 前述ノ如ク木匠ノ用フル尺度ニシテ營造尺ヲ換用シタルモノナリ土地ノ測量家屋ノ建築等ニ用フ一尺ハ我曲尺ノ一尺〇四分強ニ當ル

(2)裁尺 絹布類又ハ粗布、綾木綿、金巾等ノ輸入綿布類ニシテ大幅又ハ中幅ノモノヲ度ルニ用フ一尺ハ木尺ノ一尺壹寸即チ我曲尺ノ一尺五寸五分ニ當ル

(3)布尺 大布又ハ花旗布ノ如キ土產品又ハ小幅物ヲ尺度ルニ使用ス一尺ハ木尺ノ一尺六寸六分即チ我一尺七寸三分ニ當ル

地勢ハ丘陵波狀ヲ爲シテ横ハリ且到處溪流沼澤地ヲ過ルト雖モ丘陵ハ傾斜緩漫ニシテ坦々タル平野ヲ走ルカ如ク車行ニ困
 難ヲ感スルコトナク溪流沼澤モ亦出水セサレハ渡渉甚タ容易ナリ
 道路ハ耕地ヨリ概シテ低ク雨期ニ至レハ泥濘車軸ヲ埋メ交通甚タ難澁ナルヲ以テ車馬旅客ハ共ニ丘陵又ハ耕地ヲ迂回シ行
 程數日遅ルルヲ常トス
 各沿道ノ主要鎮屯及里程左ノ如シ

北道(楊木林子、拘鹿經由)		同(西安、拘鹿經由)	
海龍	東豐	同上	六〇
東豐	猴兒石	東豐	西安
猴兒石	二龍山	九〇	
二龍山	楊木林子		
楊木林子	伙朝溝		
楊木林子	拘鹿	西安	九〇
拘鹿	郭家店	同上	五〇
郭家店	馬市堡	同上	五〇
馬市堡	開原城	同上	二〇
開原城	開原驛	同上	二〇
海龍	黑嘴子		
黑嘴子	北山城子		

北山城子	白銀河	四五
白銀河	土口子	二二
土口子	商家台	二五
商家台	大孤家子	二〇
大孤家子	李家台	四五
李家台	八棵樹	四〇
八棵樹	貂皮屯	八
貂皮屯	尙陽堡	二五
尙陽堡	開原驛	四〇

右ノ外海龍ヲ中心トスル各都市間ノ交通路ハ四通八達シ年中車馬旅客ノ來往少ナカラス其狀況地名里程等左ノ如シ

1、北山城子街道	至北山城子(開原へ通スルモノ)	一一〇
2、東豐街道	至東豐(同上)	六〇
3、朝陽鎮街道	至朝陽鎮	三五
4、磨盤山街道	至磨盤山	九〇
5、柳河街道	至柳河鎮	一一〇
6、權子哨街道	至權子哨	九〇
7、伊通街道	至伊通	二五〇
1、開原街道	至開原驛	二八〇

2、鐵嶺街道 至鐵嶺

三二二

一九八

右二街道ハ特産物ノ輸出路及雜貨輸入路トシテ最重要ナルモノトス此道路ハ市ノ西門ヲ出テ白銀河ヲ經分水峯ヲ越エ土
口子邊門ヲ過キ清河ニ沿ヒテ下ルモノニシテ沿道ニハ大村落相續ク鐵嶺ハ開原驛ヲ距ル八支里ナル長相屯ヨリ分岐シ
南下スルコト五十支里ニシテ達ス當地ノ特産物ハ原ト鐵嶺ニ輸出セラレタレト開原驛ノ發達ト共ニ該驛ニ其大部分ヲ吸收
セラルルニ至リタルヲ以テ鐵嶺商務會ハ老坎峯又ハ大盤峯ノ險ヲ開鑿シ糧車ヲ直接鐵嶺ニ招致セント謀リツツアルモ(1)
長相屯經由ノ道路良好ナルコト(2)老坎峯又ハ大盤峯ヲ經由スルモ餘リニ近距離ナラス蓋シ老坎峯ヲ經由スレハ三百二
十支里大盤峯ヲ經由スレハ三百五支里ニシテ前者ハ僅ニ二支里後者モ僅ニ十七支里ノ近距離トナルノミ(3)長相屯經由
ノ道路ヲ採レハ該處ニ於テ開原驛及鐵嶺ノ相場ヲ知り得レハ相場高價ナル地ヲ選擇シテ仕向クルノ利アルヲ以テ老坎峯又
ハ大盤峯ヲ開鑿スルモ開原驛輸出貨物ヲ該地ニ招致スルコト能ハサルヘシ現今輸出貨物ノ比例ハ開原驛八、鐵嶺二トス

3、掏鹿街道 至掏鹿

百八支里

4、東豐街道 至東豐

八十支里

5、海龍街道 至海龍

百十支里

6、柳河街道 至柳河

七十五支里

此街道ハ南門ヲ出テ東南走レ頭八石、等ヲ經テ柳河鎮ニ到リ更ニ孤山子、通溝、勝水河子及様子哨等柳河縣諸集鎮ニ通ス

7、南山城子街道 至南山城子

八十支里

此街道ハ南門ヲ出テ楊子河ヲ經由スルモノトス

8、興京街道 至興京

二百六十支里

此街道ハ開原街道上ノ白銀河ヨリ分岐シ西南走シ英額邊門ヲ過キ開原縣界ニ入り八蒙子ヲ經更ニ興京縣界ニ入り興京ニ到
ルモノト又南門ヲ出テ南下シ柳河縣大沙灘ニ到リ該處ニ於テ柳河興京街道ニ合スルモノトノ二アリ後者稍近距離トス

(ハ) 朝陽鎮ヲ中心トスルモノ左ノ如シ

七十支里

1、此街道ハ當市ノ貨物輸出入路トシテ最重要ナルモノトス此道路ニ就テハ既ニ海龍ヲ中心トスル道路ノ項ニ於テ述
ヘタリ又當地ヨリ開原又ハ鐵嶺等鐵道沿線ニ出スルニハ海龍ニ於テ北山城子ヲ經由スルモノト東豐及掏鹿ヲ經由スル
モノトニ岐ルルコトモ既ニ之ヲ述ヘタリ

2、磨盤山街道 至磨盤山

七十支里

此街道ハ東北門ヲ出テ北走東虎嶺及錫奎嶺等ヲ越ユレトモ傾斜極メテ緩ニ粵上ハ平地ノ如ク車行甚シク困難ナラス

3、黑石頭街道 至黑石頭

百十支里

此街道ハ東門ヲ出テ輝發河ニ沿ヒテ下ル黑石頭ヨリ七十支里ニシテ官街二、官街ヨリ六十支里ニシテ權甸、權甸ヨリ

二百支里ニシテ吉林ニ到ル

4、輝南街道 至輝南

四十五支里

此街道ハ東南門ヲ出テ東南走シ途中數河ヲ徒涉シ數嶺ヲ越ヘ道路ハ良好ナラサレトモ輝南、濛江及撫松等東方諸縣ヨリ冬
季山貨及材木ヲ搬出スル馬車ノ通行甚タ盛ナリ

5、杉松崗及様子哨街道 至杉松崗

七十支里

此街道ハ東南門ヲ出テ南走スルコト三十五支里ノ處ニ於テ右折スルモノハ様子哨ニ到リ左折スルモノハ杉松崗ニ到ル杉松
崗街道ハ杉松崗ヨリ石炭ノ輸出路トシテ重要ナルモノナリ冬季ハ頗ル平坦ナル良道ナレトモ夏季ハ出水多ク様子哨ヲ迂廻
スルモノ多シ様子哨杉松崗間ハ十五支里アリ

9、柳河街道 至柳河

百三十支里

此街道ハ南門ヲ出テ河窪ヲ經由スルモノナリ此街道ハ餘リ交通ナシ

(ニ) 輝南ヲ中心トスルモノ左ノ如シ

四十支里

一九九

1、朝陽鎮街道 至朝陽鎮

四十五支里

此街道ニ就テハ前項ニ於テ之ヲ述ヘタリ

2、磨盤山街道 至磨盤山

九十支里

此街道ハ市ノ北門ヲ出テ北走輝發城ヲ經由スルモノニシテ山間ヲ走レトモ終始溪谷ニノミ沿ヒ一ノ險阻ナク冬季ハ極メテ良道ナリ

3、濛江街道 至濛江

百三十支里

此街道ハ南門ヨリ出テ(東門ヨリ出ツル道路モアリ後ニ合ス)東南走スルモノニシテ濛江地方ヨリ山貨及木材ヲ輸出スル重要ナル道路トス

4、杉松崗及様子哨街道至杉松崗

至様子哨 五十支里

此街道ハ市ノ南門ヲ出テ哈爾河(上流安子河流域ニ有名ナル鐵礦アリ)ニ沿ヒ南下杉松崗ニ達シ更ニ西進十五支里ニシテ様子哨ニ到ル

(ホ) 柳河鎮ヲ中心トスルモノ左ノ如シ

1、北山城子街道(二八石經由)

至北山城子

七十五支里

2、海龍街道(尖水河子經由)

至海龍

百十支里

3、朝陽鎮街道(仙人溝經由)

至朝陽鎮

百三十支里

4、東豐街道(尖水河子經由)

至東豐

百二十支里

5、通化街道(馬鹿溝經由)

至通化

二百二十支里

6、興京街道(向陽鎮經由)

至興京

二百四十支里

(ハ) 様子哨ヲ中心トスルモノ左ノ如シ

1、朝陽鎮街道(樓上經由)

至朝陽鎮

七十支里

2、杉松崗及輝南街道 至杉松崗

十五支里

至輝南

五十支里

3、海龍街道

(勝水河子經由)

至海龍

九十支里

●●●●●

輸送機關 (イ) 荷馬車(大車) 五頭乃至八頭挽ニシテ積載量冬季ハ雜貨二千五百斤乃至三千斤穀類十石乃至十二石即チ四千斤内外ニシテ夏季ハ約半減ス一日ノ行程ハ冬季ニ於テ二百二十支里内外夏季ハ七十支里内外トス旅客ノ乗用ニ供スル場合

ハ安平ヲ以テ幌ヲ作ル夏季ノ旅行ニハ涼快ナレト塵埃ヲ防クニ足ラス六名座乘シ得

(ロ) 轎車(小車) 二、三頭挽ノ荷馬車ニシテ二三名乗用シ得積載量ハ約五百斤内外一日ノ行程ハ冬季百二十支里以上夏季九十支里内外ナリ

大車小車ハ共ニ發條ヲ備ヘサルカ爲メ(其構造ニ就テハ林業ノ章材種ノ項參照)進行中ノ動搖甚タシク貨物ノ磨損損損就中甚タ多キヲ以テ荷造ハ充分堅牢ニセサルヘカラス乘客モ長途ノ旅行ニハ充分厚キ敷物ヲ用意スルヲ要ス

(ハ) 轎 一人乘ニシテ十六名ノ苦力交替シテ八名ニテ擔ク道路泥濘車馬ヲ通セサル場合ノ旅行ニ至便ナルモ手荷物ヲ携帶スルコト能ハサル爲メ長途旅行ニハ之ニヨルモノ鮮シ

(ニ) 轎車 大轎ト小轎トアリ小轎ハ一頭挽ニシテ結水中ニ於ケル近距離ノ小貨物運搬用トシテ至便ナリ大轎ハ主トシテ材木運搬用ニ供シ三頭乃至五頭ヲ以テ挽ク積載重量約五千斤内外トス

●●●●● 運賃 運賃ハ四季不同ナレト概シテ冬季道路ノ結氷シテ車馬ノ交通自由ナル時ニ安ク夏季殊ニ降雨期中道路泥濘ナル期ニ於テ高價ナリサレト開原街道ニ於ケル車馬ノ運賃ハ全然荷捌ノ關係ニ支配セラレ居リ穀物出廻期以後冬季間鐵道沿線行ノ貨物輻奏セル場合ハ開原行ノ運賃ハ甚タ高價ナレト開原ヨリ輿地行ノモノハ甚タ廉ニシテ開原行ノモノノ半額以下ナリサ

レハ輸入品ハ天部分此時期ニ於テ搬入セラル

夏季貨物ノ鮮少ナル場合ニ於ケル開原ヨリ輿地行ノ運賃ハ頗ル不廉ナルカ開原ヘ向テ歸路ニ就ク馬車ヲ雇入ルル時ハ甚タ廉價ナリ但輿地ヨリ特ニ雇入テ開原地方ヘ仕向クル時ハ運賃高價ナルヲ免レス今試ニ海龍開原間ノ運賃ヲ示サハ左ノ如

開原行

小車	一輛	冬季	二〇〇〇—四〇〇〇
同	上	夏季	二五〇〇—四五〇〇
大車	同	冬季	三五〇〇—四五〇〇
同上	同	夏季	三五〇〇—五〇〇〇
大豆	一石	冬季	六〇〇—七五〇
豆粕	百枚	同	六〇〇—七五〇
藍	百斤	同	二〇〇—二五〇
豆油	同	同	二五〇—三〇〇
煙草	百斤	冬季	二五〇—三〇〇
材木	一車	同	三五〇〇—四五〇〇
海龍行			
小車	一輛	冬季	一〇〇〇—一五〇〇
同上	同	夏季	三〇〇〇—三五〇〇
大車	同	冬季	一五〇〇—二〇〇〇
同上	同	夏季	三五〇〇—五〇〇〇
輸入雜貨	百斤	冬季	一五〇—二五〇
同上	同	夏季	三〇〇—四五〇

海龍鐵嶺間ノ運賃ハ前記ノ賃率ノ約三割高ヲ示セリ

水路 當地方ヲ貫流スル柳河沙河及三統河ハ平素ハ水深河幅共ニ大ナラス夏季増水ノ場合ト雖モ舟楫ヲ通セス僅ニ農民カ渡船又ハ漁撈用ニ獨木船ヲ操ルヲ見ルノミナレト此等諸川ノ會流點タル朝陽鎮以東ノ輝發江ハ夏季吃水二尺ニ足ラサル小戎克ヲ通シ吉林トノ間ニ航行シ得レト水流急速ナルト途中馬賊ノ危險多キカ爲メニ平素同江ノ水運ヲ利用スルモノ殆トナシ哈蟆河ハ數年前マテハ夏季河水増漲ノ場合老崗地方ヨリ盛ニ吉林へ流筏シタルモ近年其流域ニ於ケル木材ハ伐採ノ結果著シク減少シ僅ニ冬季河面ニ橋ヲ走ラシテ當地方ニ供給スル薪炭ヲ輸送シツアルニ過キス

第二節 通信機關

郵便 海龍ニ二等郵便局アリ局長一名、事務員一名、集配人三名、遞送人二名ヲ置キ一般郵便事務ヲ取扱ヒツツアリ一日ノ取扱郵便件數約七、八百件爲替取組高一箇月約七百元内外拂出高同五、六百元(爲替ニ就テハ金融ノ章參照)切手賣上高約四百元内外アリテ市内ハ一日二回村落ハ三日乃至五日毎ニ集配ス

滿鐵沿線地方へノ差立及同地方ヨリ到着ハ毎日一回アリ海龍開原間ノ遞送ニハ普通三日ヲ要スレト雨期ニハ一週間以上ヲ費シ郵便物ノ遲着スルコト珍ラシカラス

北山	城子	海龍縣	二等局
朝陽	鎮	同	同
輝南	同	輝南縣	同
柳河	同	柳河縣	同
樣子	哨	同	三等局

孤山子 同 同
電信 海龍ニ二等電報局北山城子及朝陽鎮ニ二等電報局アリ各局長一名局員一名配達夫一名ヲ置キ内外電報ヲ取扱ヘリ
一語ノ料金左ノ如シ

歐文 東三省内 羅馬字十五字以内(平文) 羅馬字十字以内(暗號)
南北支那 同 大洋九仙
日本 同 大洋十八仙
(同) 大洋二十五仙

漢文 東三省内 一字 大洋六仙
南北支那 同 大洋十二仙

當地ヲ中心トスル電信回線左ノ如シ

1、開原ニ通シ開原局ヨリ支那局幹線及日本局線ニ接続スルモノ(東豊、西安、拘鹿三局經由直通)
2、吉林ニ通シ吉林局ヨリ北滿各局ニ接続スルモノ(通化ヨリハ八道江、臨江各局經由長白ニ通スルモノ及輯安局、桓仁局ニ通スルモノ三枝線アリ)

電話 (イ)海龍縣電話總局大正五年ノ創設ニ係リ現在加入者八十餘戸アリ一ヶ月使用料小洋元五元トス又左記各地トノ間ニ長距離連絡ノ便アリ一通話(五分間)ノ料金並各局トノ連絡關係左ノ如シ(電話加入者ハ左表料金ヨリ小洋一角ヲ減徴ス又電話交換機ナキ地ヘノ通話ニ對シテハ通話料ノ外受話人呼出料小洋二角ヲ加徴ス)

海龍縣内

朝陽鎮 海龍縣朝陽鎮電話局アリ加入者約四十戸
北山城子 海龍縣北山城子電話局アリ電話加入者約八十戸百機用單式交換機一臺備付
沙河 電話機備付

六八石 同上 二〇
土口子 同上 四〇
白銀河 同上 四〇
二龍山 同上 四〇

柳河縣内

柳河 柳河縣電話局アリ電話加入者約四十戸
柳河 五十機用單式交換機一臺備付
柳河 柳河縣柳河電話局アリ電話加入者約六十戸百機用單式交換機一臺備付
孤山子 電話機備付
勝水河子 同上 一〇〇
南山城子 同上 一〇〇
三源浦 同上 一〇〇
亨通山 同上 一〇〇
仙通溝 同上 一〇〇
小通溝 同上 一〇〇
大通溝 同上 一〇〇
板石河 同上 一〇〇
岩石河 同上 一〇〇
萬石溝 同上 一〇〇
藍山 同上 一〇〇
二〇五

柞木臺 同上

輝南縣 內
輝南縣電話局アリ電話加入者約七十戸
百機用單式交換機一臺備付
電話機備付

輝南	杉松崗	三區	流水溝	大場園	交河口	托佛別	高家崗	大肚川	樓街	二道溝	松樹溝	哈媽河	平安川	東豐	黃泥河
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
二〇六	一五〇	六〇	七〇	七〇	七〇	八〇	七〇	七〇	七〇	八〇	七〇	七〇	七〇	五〇	七〇

東豐縣 內

東豐縣電話局アリ電話加入者約九十戸
百機用單式交換機一臺備付
電話機備付

大沙河	那丹伯	葦子溝	大興鎮	猴石	二龍山	楊木林子	四平街	大陽巖	雙龍山	壁影山	老黃營	樺樹河	山城子	鷄鷹河	樓脖崗	灣龍溝	西安縣 內
同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
八〇	一一	一三	七〇	七〇	六〇	七〇	八〇	七〇	七〇	七〇	一〇〇	六〇	六〇	七〇	四〇	四〇	一〇〇

西安縣電話局アリ電話加入者約九十戸
百機用單式交換機一臺備付

夾信子	電話機備付	二〇八
炮正推子	同上	一〇〇
二道河子	同上	一〇〇
老虎窩	同上	一〇〇
遼月源	同上	一〇〇
拉均河	同上	一三〇

西豐縣內

拘鹿 西豐縣電話局アリ電話加入者約百二十戸
百機月單式交換機一臺五十機用同上二臺備付

(ロ) 海龍ヲ中心トスル電話回線

- 1、海龍ヨリ東豐ニ通スルモノ
本線ハ海龍電話總局ヨリ東豐縣電話局經由東豐、西安、西豐各縣內都邑ニ通ス
- 2、海龍ヨリ北山城子ニ通スルモノ
本線ハ海龍縣電話總局ヨリ北山城子電話局ニ通ス同局ヨリハ更ニ柳河縣電話局ニ通スル一線アリテ柳河局ヨリ柳河縣內各都邑ニ通セリ海龍縣ヨリ柳河縣各地ヘノ通話ハ右二線ニヨル又柳河北山城子兩局ヲ結フ一線ハ東豐、西安、西豐諸縣內都邑トノ間ニ通ス
- 3、海龍ヨリ朝陽鎮ニ通スルモノ
本線ハ海龍縣電話總局ヨリ朝陽鎮電話局ニ通シ同局ヨリ更ニ輝南縣電話局經由輝南縣內各都邑ニ通ス様子哨及杉松崗ヘハ朝陽鎮電話局ヨリ直通ス
- 4、海龍ヨリ輝南ニ通スルモノ

本線ハ海龍縣電話總局ヨリ輝南縣電話局ニ通シ更ニ同局經由輝南縣內各都邑及様子哨電話局線ニ通セリ

(ハ) 電話局內附設長距離電話 當地方電話局市外線及各電話局間ヲ連絡セル長距離線ハ何レモ單線ナル爲メ通信常ニ幅狭シテ容易ニ通話スルコトヲ得サルノミナラス遠距離ノ地點ニ對スル通話ハ電力不足ノ爲メ甚タ明瞭ヲ缺キ一般公衆ノ不便鮮少ナカラサルヲ以テ交通部ニ於テハ海龍、朝陽鎮、北山城子、盤石等各地電報局內ニ電話機ヲ附設シ之ヲ電信線ニ連結シテ一般公衆ノ利用ニ供シツツアリ但シ本線ハ市內線トノ連絡不可能ナルカ爲メ送話者受話者ハ共ニ電報局マテ出頭セサルヘカラサル不便アリ剩ヘ料金電話線ニ比シ甚タ不廉ナルカ爲メ當地ヨリハ盤石、吉林若クハ通化ノ如キ電話局線ノ通セサル地ヲ除ク以外ノ地ニ對スル通信ニハ之ヲ利用スルモノ稀ナリ

自海龍	至朝陽鎮	四〇
同	至盤石	八〇
同	至吉林	一四〇
同	至北山城子	六〇
同	至通化	一二〇

第十六章 公私ノ施設

第一節 海龍縣ノ支那官衙其他

行政機關 (イ)海龍縣公署 縣署ハモト行政科司法科ノ二分科制ナリシカ海龍地方審判廳開設以來司法科ハ裁撤セラレ現在行政科ノミトナレリ知事ハ科長、交渉員ヲ指揮監督シ縣內ノ行政及地方的交渉事務ヲ辦理ス行政科ニ行政課、庶務課會

計課及監獄課ヲ置ク會計課ニハ別ニ專任股員一名ヲ置キ田賦ノ收納ヲ掌ラシム
 縣署内ニ登記所及收捐處アリ前者ハ一般登記事務ヲ取扱ヒ後者ハ地方税ノ徵收ニ任ス何レモ北山城子及朝陽鎮ニ地ノ警察署内ニ出張所ヲ設ケ事務ヲ分掌セシム
 主ナル職員名左ノ如シ

知事 湯文煥
 行政科長 李喜元
 交渉員 夏潤遠

(ロ) 海龍縣警察事務所(海龍) 知事監督ノ下ニ縣内警察事務ヲ統轄ス所長之カ長トシテ所内ニ總務、行政、衛生等ノ各課ヲ置ク縣内ヲ總テ四區ニ分チ海龍、朝陽鎮北山城子及六八且ニ區官ヲ配置シ各區ニ分駐所ヲ置キ地方警察行政ニ分掌セシム其配置左ノ如シ(大正九年三月末調)

名 稱	所在地	職名及姓名	署員數	銃
海龍縣警察事務所	海龍	所長 李金標	署員 二三名	一
第一區	同	區官 傅鴻治	巡查六名、署員四〇名	四七
第二區	杏	區官 曹獻廷	巡查三名、署員三〇名	三一
第三區	朝陽鎮	區官 李壽山	巡查四名、署員四〇名	四五
第四區	八大泉眼	區官 陳德林	巡查四名、署員三〇名	三一
第一區二分所	北黑咀子	巡官 王蔭棠	巡查三名、署員二五名	二六
第二區二分所	六八且	區官 史占元	巡查四名、署員三五名	四〇

第三區一分所	梅河口	巡官 趙玉田	巡查三名、署員二五名	二九
第四區一分所	孤山子	巡官 劉峻峰	巡查四名、署員四〇名	四一
第四區二分所	土口子	巡官 張維新	巡查三名、署員三〇名	三一
第四區三分所	大荒溝	巡官 白富貴	巡查二名、署員二〇名	二〇

右ノ外匪賊ノ討伐及取締ノ爲メ警察馬隊ヲ置キ縣知事ニ直屬セシム其配置左ノ如シ(大正九年三月末調)

名 稱	所在地	隊長姓名	隊員數	銃	馬	砲
警察隊	海龍	王德俊	巡查三、隊員三〇	三一	三一	無
警察第一分隊	白銀河	馬德福	巡查三、隊員三〇	三一	三一	同
同 第二分隊	海龍	洪德順	巡查三、隊員三〇	三一	三一	同
同 第三分隊	霍家燒鍋	沙仲三	巡查三、隊員三〇	三一	三一	同

(ハ) 稅捐局(海龍) 出產貨物、輸入貨物、煙酒、木材、車輛、家畜及營業商取引等ニ對スル國稅ノ徵收ヲ掌ル
 本縣ノ稅捐局ハ輝南ノ徵稅事務ヲモ監督シ輝南ニハ唯分局ヲ置ケリ總局ハ縣城ニ置カスシテ之ヲ北山城子ニ置ケリ總局ノ下二三分局及八小分局アリ(何レモ分局ト稱シ居レルモ小分局ハ出張所ニ相當スル小規模ノモノナリ)一箇年ノ徵稅額ハ各分局ヲ通シテ約二十七萬元ト稱ス
 分局ノ所在地左ノ如シ

大分局 海龍 朝陽鎮 輝南
 小分局 蛟河 樓上 團林 杉松崗 六八石 土日子 英額城 香爐碗
 司法機關 (イ)海龍地方審判廳(海龍) 海龍、柳河、輝南、東豐ノ四縣内ニ於ケル裁判事務ヲ管轄シ廳長ノ下ニ民庭長及

刑庭長ヲ置ク推事(判事)ハ廳長及民刑兩庭長ノ三名ヲ以テ定員ト爲シ外ニ書記官長一名、書記官三名(書記官ハ我裁判所書記ニ相當シ口述ノ書取、書類、記錄ノ調製、會計文牘及其他一切ノ庶務ヲ掌ル)、承發吏(我執達吏ニ相當ス審判廳及檢察廳ノ文書ヲ發送シ且兩廳ノ命ヲ受ケ判決ヲ執行シ指定物件ヲ沒收シ又當事者ノ申請ニヨリ通知催告及呼出ヲ爲ス)三名庭丁外傭員十名ヲ置ケリ

(ロ) 海龍地方檢察廳 海龍地方審判廳内ニ附置ス我檢事局ニ相當シ檢察長(檢事正)之カ長タリ檢察長ノ下ニ檢察官(檢事)一名、書記官長一名、書記官三名並司法警(巡警ニシテ司法事件ニ關スル檢事ノ調査ヲ補助ス)十名ヲ置ケリ常廳ノ管轄區域ハ地方審判廳ノ管轄區域ニ同シ

教育機關 (イ)海龍縣勸學所(海龍) 所長一名勸學員三名ヲ置ク縣内ノ學務ニ關スル調査、監督及報告ニ任ス勸學員ハ縣視學ヲ兼テ隨時各地ニ出張シテ各學校ノ課程ヲ視察スルト共ニ教師ノ成績ヲ所長ニ報告ス

構内ニ附設ノ圖書館及教育品陳列所アリ

(ハ) 海龍縣教育會(海龍) 事務所ヲ前記勸學所内ニ置ク勸學所員及縣立各學校長幹事トナリ縣内教育ノ振興及普及ヲ目的トシテ隨時會員ヲ召集シテ講演ヲ爲ス

(ニ) 學校 縣立學校三十七アリ内中學校一、師範學校一、女學校三、小學校三十二、生徒合計百一十一名アリ其校名所在地其他左ノ如シ

學 校 名	所在地	人員數	班 數	生徒數
海龍縣立中學校	海龍	八	二	七〇
同 師範學校	同	三	一	六〇
同 女 學 校	同	三	二	七二
同 兩等小學校	同	八	五	一六七

同 第一國民學校	同	二	二	五六
同 第二國民學校	同	二	二	六四
同 奶子山國民學校	奶子山	一	一	一八
同 雙項子國民學校	雙項子	二	二	五三
同 一統河窪國民學校	一統河窪	一	一	三九
同 朝陽鎮兩等小學校	朝陽鎮	五	三	一一一
同 朝陽鎮女學校	同	二	二	五〇
同 野豬河國民學校	野豬河	二	二	五八
同 鴨綠河國民學校	鴨綠河	二	二	五〇
同 太平川國民學校	太平川	二	二	五〇
同 杏嶺國民學校	杏嶺	一	一	三一
同 三合堡國民學校	三合堡	二	二	五五
同 灣龍溝國民學校	灣龍溝	二	二	四〇
同 梅河國民學校	梅河	五	三	一一〇
同 蓮花泡國民學校	蓮花泡	二	二	五四
同 六八石國民學校	六八石	二	二	五八
同 城子河子國民學校	城子河子	一	一	二八
同 黑咀子國民學校	黑咀子	二	二	四六
同 四八石第一國民學校	四八石	一	一	二二
				二二三

同	四八石第二國民學校	同	一	二二四
同	山城子南等小學校	山城子	八	二二二
同	同 女學校	同	一	四三
同	頭八石國民學校	頭八石	一	三五
同	大荒溝國民學校	大荒溝	一	二四
同	花園國民學校	花園	一	二四
同	二龍山國民學校	二龍山	一	三四
同	六官巷國民學校	六官巷	一	三一
同	白銀河國民學校	白銀河	二	六七
同	孤山子國民學校	孤山子	一	三二
同	牛心頂子國民學校	牛心頂子	二	五〇
同	高楊樹國民學校	高楊樹	二	七〇
同	北黑咀子國民學校	北黑咀子	一	三〇
同	康大營國民學校	康大營	一	三三

右ノ外朝陽鎮在住英國人宣教師ノ經營ニ係ル中學校一、女學校一、小學校一(宗教的施設ノ項参照)、地方有志者ノ設立ニ係ル私立小學校三十校(就學兒童數合計約五百名)及學房百五十二アリ學房トハ舊式ノ私塾ニシテ四書五經等ノ素讀及習字ヲ教フル我國往時ノ寺小屋ニ類スルモノナリ

(ニ) 海龍縣醫學研究會(海龍) 當地方支那人醫師ヲ會員トス事務所ヲ海龍南門外ニ設ケ隨時奉天ヨリ專門家ヲ招聘シテ講習會ヲ開キ會期終了ノ上技術試驗ヲ行ヒ又會員ニ研究資料ヲ提供シテ醫學研鑽上諸般ノ便宜ヲ與フ

商業機關 (イ) 海龍商務分會(海龍) 光緒三十二年ノ開辦ニ係リ現在會長及副會長各一名、會董十二名、會員百餘名アリ事務所ニ文牘一名、書記一名ヲ置ク

商務會ハ商業ノ保護發展ニ必要ノ施設ヲ爲シ且商取引ノ媒介斡旋、會員間紛争ノ調停處理、道路及溝渠ノ修築ニ任スル外縣署ニ代リ商家捐(一家多キハ毎月二十餘元少キハ七角位迄ニシテ其額毎月九百餘元アリ)ヲ徵收シ各地商務會ト連絡ヲ保チテ地方ノ商情ヲ調査シ特産物ノ取引相場ヲ公定シ又會ニ商團ヲ附設シ團兵(壯丁)常備四十名豫備四十名ヲ置キ市街ノ警戒ニ當ラシムルト共ニ手押「ボンブ」一臺ヲ備ヘ消防ニ任セシムル等社會公共ノ爲メ盡ス所尠ナカラス

會ノ收入ノ主ナルモノハ會款(即チ商家捐)及罰款(會規違反者ヨリ徵收スル過料)ニシテ其一箇年總收入ハ約小洋一萬八千二百餘元ニシテ其支出ノ主ナルモノハ大約左ノ如シ

事務員俸給	一、〇〇〇、〇〇
事務所雜費	七〇〇、〇〇
同 家賃	六〇〇、〇〇
壕門及道路修築費	三、〇〇〇、〇〇
商團兵給料	四、〇〇〇、〇〇
同 被服料	一、二〇〇、〇〇
辦公諸雜費	三、〇〇〇、〇〇
其他	四、〇〇〇、〇〇

(ロ) 朝陽鎮商務分會(朝陽鎮) 光緒三十三年ノ開辦ニ係リ現在總理一名、會董二十名及會員二百七十名アリ會董ヲ四分シ五名宛毎月輪番ニ會務ヲ執ラシム事務所ニハ文牘一名書記一名及辦事員一名ヲ置ク會ニ商務團ヲ附設シ市ノ警戒ニ備フ現今團丁三十餘名アリ

會ノ收入ハ商家ヨリ徵收スル商家捐ニシテ一箇月約一千元アリ支出ハ商務團ノ經費、巡警局及兵營ノ修築費、巡警ノ賞與金並陸軍又ハ巡警ノ馬賊討伐ノ爲メ來屯シタル時ノ宿料補助等トス

(二) 北山城子商務分會(北山城子) 光緒三十三年ノ開辦ニ係リ現在會長及副會長各一名會董二十五名會員二百五十餘名アリ事務所ニ文牘一名、書記一名ヲ置キ商務團及消防隊ヲ附設セリ

(三) 銀行 金融ノ章參照

工業的施設 (イ)北山城裕華電燈公司 工業ノ章參照

農業機關 (イ)海龍縣農務會(海龍) 海龍縣電話總局内ニ置キ會長一名、幹事數名及書記一名ヲ置キ縣知事監督ノ下ニ縣内ノ農業ニ關スル調査及指導ニ任スルト其事業トシテハ商務會ノ如キ見ルヘキモノナシ

交通機關

(イ) 郵 政 局 (海龍、北山城子、朝陽鎮) 交通及通信機關ノ章參照

(ロ) 電 報 局 (同 上) 同 上

(ハ) 海龍縣電話總局 (海 龍) 同 上

(ニ) 海龍縣北山城子電話局 (北山城子) 同 上

(ホ) 海龍縣朝陽鎮電話局 (朝陽鎮) 同 上

警備機關 (イ)保衛團及商務團 保衛團及商務團ハ警察行政ノ補助機關トス海龍、朝陽鎮及北山城子ノ市街地ニハ商務團ヲ置キテ商務會ニ分屬セシメ(商務團ニ就テハ各地商務分會ノ頂下ニ於テ述ヘタリ)村落ニハ保衛團ヲ置ク

保衛團ハ知事總管ノ下ニ四團アリ團ノ下ニ十保、保ノ下ニ十甲、甲ノ下ニ十牌アリ團ニハ團總、保ニハ保董、甲ニハ甲長牌ニハ牌長ヲ置キ團事務所ニハ常駐團丁二十名保聚會所ニハ二十五名ヲ置キ若干ノ武器及馬匹ヲ備ヘ匪賊ノ警戒ニ備フ團事務所ノ所在地及團員ノ配置等左ノ如シ

名 稱

所在地

團長名

團丁數

銃

第一團	牛心頂子	孫承儒	二五	二六
第二團	八家崗	蔡維忠	二五	二六
第三團	六八旦	曹榮廷	二〇	二一
第四團	楊樹河子	王樹魁	三〇	三一

保衛團費ハ土地一畝ニ付每年小洋四分トス保衛團ヲ保甲ト改稱シ團ヲ路、團長ヲ總甲長ト爲スノ議アリ近ク實施サレム

(ロ) 軍隊 奉天暫編陸軍第五混成旅司令部ハ拘鹿ト北山城子トノ間ヲ時々轉駐シ所屬第卅團本部ヲ西安ニ第十團本部ヲ北山城子ニ常駐セシム海龍縣内駐屯ノ支那軍隊ノ配置兵力左ノ如シ

名 稱

駐在地

職別

姓名

兵 數

銃數

備考

陸軍第五混成旅步兵一團一營三連	海龍	連長	周鳳瑞	排長	三、兵 一二〇	一二四	附屬十二連
同 上 步兵九團三營營部	朝陽鎮	營長	劉鳳武				
同 上 同上 十一連	同	連長	唐如存	排長	三、兵 一三〇	一二四	
同 上 同上 十二連	同	同	王成德	排長	三、兵 一二〇	一二四	
第五混成旅司令部	山城鎮	旅長	齊恩銘	部下	八五、馬隊 一三	九九	
同 步兵第一團一營各部	同	營長	王紹文	部下	四五、馬隊 五	五一	
同 同 同 一連	同	連長	王永勝	排長	三、兵 一二〇	一二四	

宗教的施設 海龍縣内ノ寺廟、耶穌教及天主教會堂左ノ如シ

(イ) 寺廟左ノ如シ

- 海龍 文廟 一 關帝廟 一 城隍廟 一 龍王廟 一 火神廟 一 娘々廟 一

朝陽鎮 財神廟 一 火神廟 一 龍王廟 一 碧霞元君廟 一
北山城子 龍王廟 一

(口) 耶穌教々會堂左ノ如シ

海 龍 一 (牧師 支那人 三名 信徒 男 四一 女 一五 計 五六)
朝陽鎮 一 (牧師 英國人 一名 信徒 男 二〇 一 女 五二 計 二五三)
北山城子 一 (牧師 支那人 三名 信徒 男 二七 女 六七 計 三四三)
右ノ外教會堂所在地左ノ如シ

六八旦 白銀河 梅河溝 太平溝

耶穌教宣教師ハ夙ニ朝陽鎮ニ入り縣下到處ニ教會堂ヲ建立シ教會附屬ノ小學校ヲ設ケタリ朝陽鎮ニ於テハ中學校、女學校、小學校及病院ヲ附設シ其經營甚タ完備シ居レリ中學校ハ速成ヲ旨トシ英文、聖經、代數、算術、國文、地理、四書幾何、物理、作文、尺牘及讀文等十二課程ヲ教授シ卒業者ハ奉天英人經營ノ醫學校ニ入學スルモノ多シ生徒ハ凡テ寄宿舍ニ容レ束修ノ外食費ヲ徵收ス目下生徒四十名アリ病院ハ施療ヲ旨トス原ト英人醫師アリタレト昨今不在ニシテ支那人助手二名專ラ治療ニ從事ス通院患者一日平均二十名入院患者一箇年平均三百名アリ入院患者ハ一箇月小洋六元ヲ徵セラ

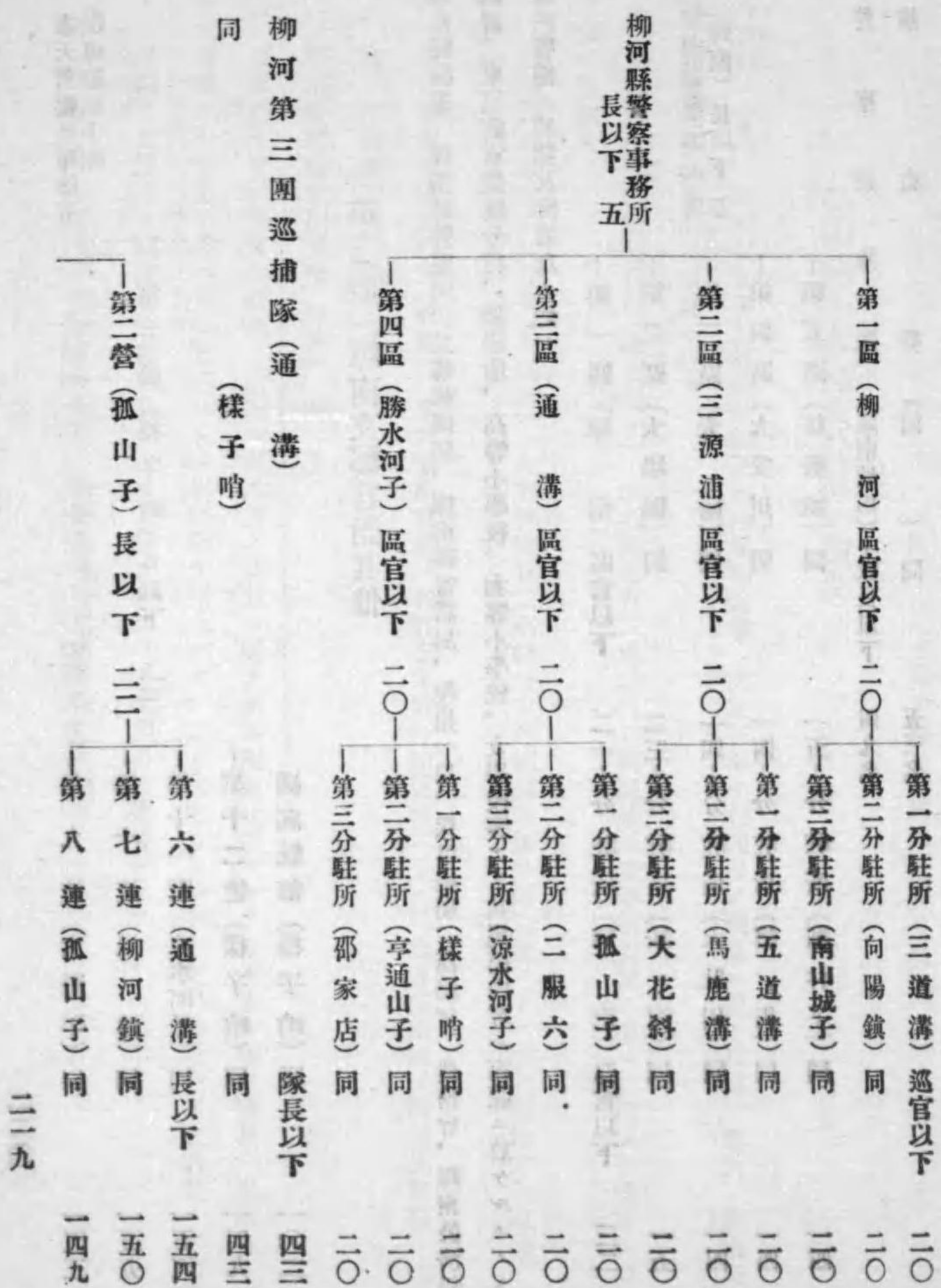
(ハ) 天主教會堂 左ノ如シ

六八旦 一 (牧師 支那人 二名 信徒 男 一一 五 女 八六 計 二〇一)

第二節 柳河ノ支那官衙其他

柳河縣公署、柳河縣警察所、二等郵便局、柳河縣電話局、稅捐局、商務會、農工銀行、商務銀號、東三省官銀號分行、高

等小學校、初等小學校、女學校等アリ其規模及狀況ハ海龍ニ於ケルモノト略同様ナレハ之レカ説明ヲ省略ス
縣下ノ警備機關及其配置左ノ如シ



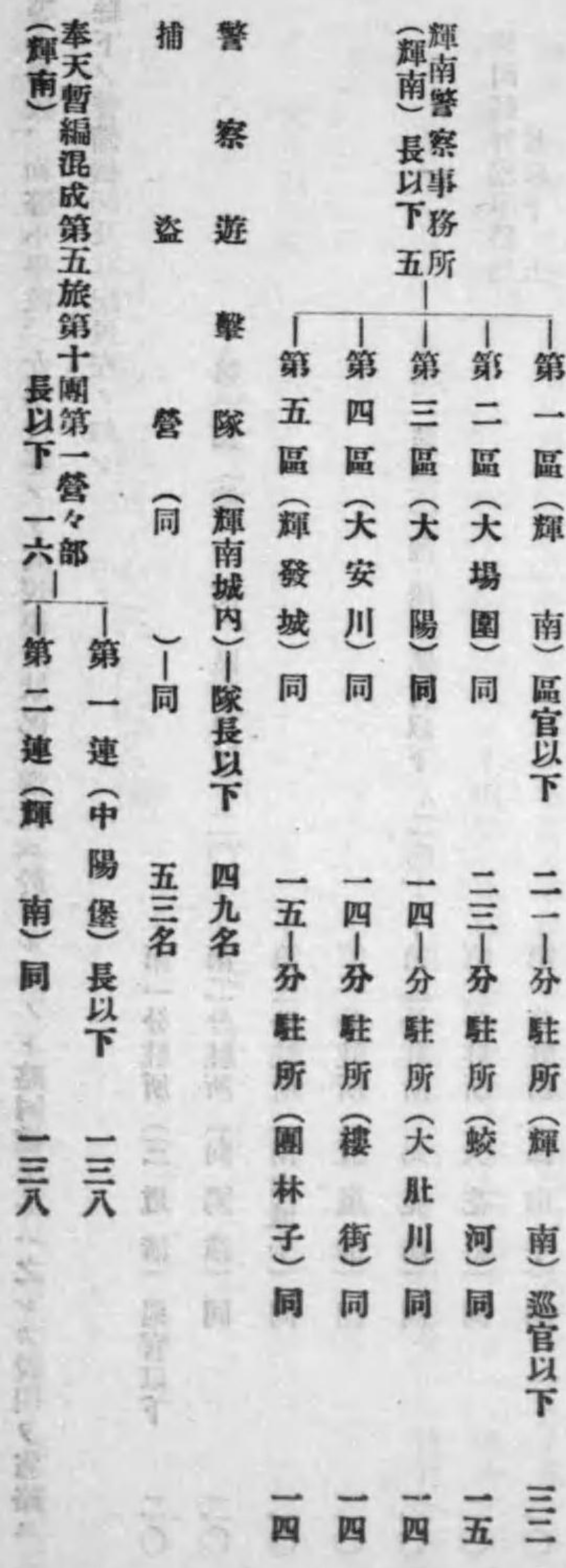
奉天暫編陸軍第五混成旅第十團



二一〇

第三節 輝南支那官衙其他

輝南縣公署、輝南縣警察所、二等郵便局、輝南縣電話局、稅捐分局、保甲總局、商務會、農務會、輝南公濟銀號、輝南商濟銀號、東三省官銀號分行、勤學所、高等小學校、初等小學校、女學校等アリ其規模内容ハ海龍ニ於ケルモノト大差ナシ縣内警備ノ狀態及配置左ノ如シ



第四節 本邦人公私ノ施設

- 官公施設** (イ) 在鐵嶺領事館海龍分館及同附屬警察署 大正五年十月四日ノ開館ニ係リ海龍、柳河、輝南三縣下ニ於ケ在留帝國臣民ノ保護及取締ニ任ス
- (ロ) 北山城子警察官出張所(北山城子) 本邦警察官二名駐在シ海龍領事館分館監督ノ下ニ北山城子地方在留民ノ保護及取締ヲ分掌ス
- (ハ) 朝陽鎮警察官出張所(朝陽鎮) 本邦警察官二名駐在シ海龍領事館分館監督ノ下ニ朝陽鎮地方在留民ノ保護取締ヲ分掌ス
- (ニ) 柳河警察官出張所(柳河) 本邦警察官一名駐在海龍分館監督ノ下ニ同地方在留民ノ保護及取締ニ任ス
- (ホ) 様子哨警察官出張所(様子哨) 同上
- (ヘ) 輝南警察官出張所(輝南) 同上
- (ト) 日本赤十字社海龍救療所 大正六年六月ノ開設ニ係リ領事館囑託醫トシテ日本赤十字社醫員一名駐在シ在留邦人ノ衛生機關タル任務ヲ盡シ旁々支那人ニ日本醫術ヲ紹介シツツアリ當地方ニ於ケル支那醫師ハ其技術遙ニ本邦醫師ニ如カサルヲ以テ支那人ノ同所ニ治療ヲ求ムルモノ尠ナカラス漸次業務ヲ發展シツツアリ
- 大正九年三月ヨリ同年八月ニ至ル同所ノ普通及施療患者月報左ノ如シ

二一一

月	日本人實員數		治療日數		支那人實員數		治療日數		支那人救療實員數		治療日數	
	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	男女計	合計
三	八三〇	三三六	三三六	一九二	九四一	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九
四	三一四	三二四	三二四	三二四	五八八	六二八	六二八	六二八	六二八	六二八	六二八	六二八
五	九二二	四九五	四九五	九四三	四三〇	四三七	四三七	四三七	四三七	四三七	四三七	四三七
六	三一四	二九五	二九五	九二二	四七五	七二九	七二九	七二九	七二九	七二九	七二九	七二九
七	六三九	二四七	二四七	一七八	六七五	八一九	八一九	八一九	八一九	八一九	八一九	八一九
八	三三六	二二七	二二七	一〇七	三二九	三一三	三一三	三一三	三一三	三一三	三一三	三一三

在留邦人現況及各地日本人會 當地方ニ邦人ノ始テ來住セルハ明治四十年前後ニシテ當時北山城子ニハ邦人在住者數十戸ヲ算シタルカ戰後ノ殺伐ナル植民地の氣分ヲ失ハサル無頼ノ徒若クハ賤業ニ從事スルモノ多數ヲ占メ堅實ナル邦人ノ發展ヲ阻碍スルコト甚キモノアリシヲ以テ之レカ取締ノ爲メ鐵嶺領事館警察署ヨリ警察官一名ヲ派遣シテ同地ニ駐在セシムルコトトナリタルカ大正元年頃ヨリ同地以東ノ奧地ニ來住スル邦人漸次多キヲ加ヘタレハ又之レカ取締ヲ要シ朝陽鎮、柳河、様子哨、輝南等ノ各地ニモ夫警察官ノ配置ヲ見ルニ至リ超テ大正五年領事分館ノ開設セラレテヨリ此等警察機關ヲ督勵シテ銳意在留民ノ善導ニ努ムルト共ニ一方不正業者ノ取締ヲ斷行シタル結果昨今在留民ノ數ハ淘汰半減セラレタレト本邦人發展ノ見地ヨリ觀ル時ハ稍成績ノ見ルヘキモノアルニ至レリ而シテ各警察官吏出張所々在地ニハ在留邦人日本人會ヲ組織シ駐在警察官直接監督ノ下ニ互ニ共助ト親睦トヲ旨トシ小規模ノ融通講等ヲ催シ居レリ

各地日本人會ハ會員未タ多キモ二十數名少キハ七八名ニ過キササルヲ以テ之レカ會則ノ如キモ所轄領事館ノ館令ヲ以テ公布シ其事業ニ對シ積極的保護取締ノ方法ヲ講スル運ニハ至ラサルモ海龍ヲ中心トスル衛生組合支部ノ事務ヲ分掌シ奧地在留邦人ノ保健ニ盡シ居レリ

在留朝鮮人現況及各地朝鮮人會 朝鮮人ハ今ヲ距ル三十年前ヨリ既ニ柳河縣三源浦地方ニ來住シテ水田ノ耕作ヲ爲シ居タルカ爾來朝鮮内地ヨリノ出稼農民ハ逐年其數ヲ増シ近年柳河ノ上流地方ヲ始トシ三統河、一統河ノ流域等ニハ年々新ニ五六千ノ來住者ヲ見ルニ至リ本年三月末ノ調査ニ於テハ在留者既ニ一萬八千七百餘名ノ多數ニ上レリ

サレト此等出稼朝鮮人ノ大部分ハ滿洲ニ於ケル農業ノ有望ナルヲ聞キ傳ヘテ漫然渡來シ來レル無資力ノ農民多ク移住先ニ生活ノ根底ヲ作りテ定住シ得ルモノ稀ナリ然ルニ最近數年來此等農民中ニハ一部不逞分子ノ煽動若クハ壓迫ニヨリ獨立運動ニ無益ノ時間ト金錢トヲ浪費スルモノアリテ之レカ保護取締上遺憾ノ點尠ナカラサルニ鑑ミ常館ニ於テハ一般朝鮮人ヲ保護譴按シテ堅實ナル發展ヲ遂ケシメ旁々此等不良分子ノ取締ニ備ヘムカ爲メ本年三月北山城子地方ニ於ケル在留朝鮮人ヲ一團トシテ北山城子鎮朝鮮人農業組合ナルモノヲ組織シタルカ更ニ本年八月ニハ柳河鎮及三源浦ヲ中心トスル主要朝鮮人部落ノ在留朝鮮人ヲ糾合シテ扶民會ナル自治團體ヲ組織シ不逞鮮人團體ニ對立セシメ以テ一般朝鮮人ノ保護取締ニ供シツツアリ尙目下様子哨ニモ同地方鮮人ノ善導ヲ目的トシテ保民會設立中ナルカ既ニ諸般ノ準備整ヒタレハ近ク發會式ヲ舉クル豫定ナリ當館ニ於テハ將來右三地ノ朝鮮人會ヲ統一シテ秩序アル鮮人ノ自治機關タラシメ之ニ積極的保護誘掖ヲ加ヘ管内鮮人ヲシテ堅實ナル發展ヲ遂ケシメムト期シツツアリ

第十七章 土地家屋ノ賣買並賃借價格及其慣習

(一) 土地ノ賣買及賃借價格及其慣習
 土地ノ賣買及賃借ニ就テハ農業及牧畜ノ章土地ニ關スル權利以下數項ニ於テ詳述スル所アリタレハ聊カ重複ノ嫌アレト更ニ之レカ價格ヲ列記スレハ左ノ如シ

イ、耕地一田地ノ賣買價格 左ノ如シ

種別	海龍縣	柳河縣	輝南縣
上等地	四〇〇 <small>小作元</small>	二五〇 <small>小作元</small>	三五〇 <small>小作元</small>
中等地	三二〇	二三〇	二八〇
下等地	二五〇	一八〇	一八〇

市街宅地一畝ノ賣買價格 左ノ如シ

種別 市街中心地 海龍 柳河 輝南

裏通 一、〇〇〇 八〇〇 八五〇

場末、郊外 六〇〇 四〇〇 四五〇

三〇〇 一五〇 二〇〇

土地ヲ買求メタルモノハ賣主ヨリ該地ノ地照ノ交付ヲ受ケ縣署ニ到リ該地照面氏名ノ書換ヲ行ヒ置クヲ要ス其手續ニ要スル料金其他ニ就テハ農業ノ章契稅及不動産登記費ヲ參照スヘシ

借地料

イ、耕地一天地ノ貸賃價格

耕地ノ貸賃借ニハ農業ノ章下小作制度及上地ニ關スル權利ノ兩項ニ於テ述ヘタルカ如ク借料ハ穀物ヲ以テ納ムルモノ多シ錢納ニ在リテハ穀量ヲ時價ニ換算シタルモノトス

一箇年分借料ノ標準左ノ如シ

種別	海龍縣	柳河縣	輝南縣
上等地	一、一五	一、一五	一、四
中等地	一、三	一、三	一、三
下等地	一、〇	一、〇	一、〇

市街中心地 海龍 柳河 輝南

裏通 一八〇小作元 一四〇小作元 一五〇小作元

場末、郊外 一〇〇 七〇 八〇

五〇 三〇 三五

家屋建築ノ目的ヲ以テ市街地空地ノ借入契約ヲ爲スモノヲ見ルニ契約期間内毎年借地料ヲ支拂フモノト之ヲ支拂ハスシテ解約ノ際建築家屋ヲ地主ニ提供スルモノトノ二アリ當地方ニ於テハ後ノ方法專ラ行ハル

但シ後ノ場合ニ於テ借主ノ使用期間長期ニ互リ家屋ノ損傷甚シキ見込ナル時ハ契約後數年ヲ經テ貸主ヨリ借主ニ對シ土地ノ買取方ヲ交渉スルカ若クハ新ニ地代ヲ協定シテ土地ノ貸賃借契約ヲ締結シ該契約書面ニ契約期間内ハ建築家屋ノ借料ヲ要セサルモ解約後該家屋ハ地主ノ所有ニ歸スヘキ旨ノ記入ヲ要求スルヲ通例トス

(二) 家屋ノ賣買及貸賃價格及其慣習

家屋ノ賣買價格ハ家屋ノ新舊、大、小、上下位置等ニヨリ不同ナレト之レカ賣買ハ普通家屋ノ間數ニ應シテ之ヲ時價(大體衣食住ノ章住居ノ項ニ掲ケタル一間ノ價格ノ七掛位)ニ見積リタルモノニ就テ行ハル家屋ノ賣買ニ要スル税金諸掛等ニ就テハ農業ノ章契稅及不動産登記費ヲ參照スヘシ

當地方ニ於ケル家屋一間ノ貸賃料(二箇年間)標準左ノ如シ

種別	賃借料
市街中心地(商舖用)	四〇、〇〇〇 <small>小洋元</small>
同 裏通(同上)	三〇、〇〇〇
同 同(住宅用)	二〇、〇〇〇
同 場末、郊外(商舖用又ハ住宅用)	一五、〇〇〇
村 落(農家用)	六、〇〇一〇、〇〇〇

家屋ノ賃借契約ハ特別ノ事情ナキ限り毎年陰曆二月中旬ト八月中旬トノ二季ニ行ハルル慣習ナリサレハ其他ノ季節ニ於テハ家屋ヲ借入ルルコト甚タ困難ナリ

借料ハ一箇年分ヲ契約季ニ前拂スルモノト之ヲ二分シテ二月八月ノ二回ニ前拂スルモノトノ二アリ

契約年限ハ三年ヲ普通トスレト一年又ハ半年ヲ以テ限トスルモノ又ハ稀ニ五年以上ノ長期ニ互ルモノ等モアリ

間借又ハ小家屋ノ借入ハ口約ヲ以テスルモノ多キモ長期ニ互ルモノ又ハ大家屋等ノ賃借ニ就テハ契約書ヲ作製シ保證人ヲ立ツルヲ通例トス

市街地ニ於ケル家屋ノ賃借契約ニハ借主ノ契約家屋以外ニ敷地内ニ築造スル家屋ハ解約ノ際當然地主ノ所有ニ歸スヘキ慣習ニシテ此場合貸主ハ期間満了ト共ニ續約スヘキ旨ヲ約スル義務ヲ負フモノトス又家屋ノ敷地廣大ナル場合ハ家屋ノ周圍

一部ノ使用ヲ許シ他ハ別ニ借料ヲ徵スル旨ヲ約スル向モアレト實際ニ於テハ之ヲ徵セサルモノ多シ

又家屋外部ノ設備及修繕ハ家主ニ於テ之ヲ負擔スレト家屋内部ノ設備修繕ノ一切ハ借受人ニ於テ之ヲ行ハサルヘカラサル

慣習ナレハ借受人ハ契約ノ當初家屋ヲ點檢シテ破損ノ箇所等アル時ハ之カ修繕ヲ要求スルコトヲ得

第十八章 勞働者並僕婢ノ賃金

當地方ニ於ケル一般勞働者並僕婢ノ賃金ハ近來非常ニ昂騰シ三、四年前ニ比スレハ何レモ五割乃至十割高ヲ示セリ其一般的標準賃銀左ノ如シ

木	匠(大工)	一日ニ付	小洋	一、〇〇〇
瓦	匠(左官)	同	同	八〇
裱糊	匠(壁張)	同	同	一〇〇
棚	匠(小屋掛人夫)	同	同	一七〇
桃肩兒	的(苦力)	同	同	六〇
拉大鋸	的(木挽)	同	同	一〇〇
打頭	的(日傭農夫)	同	同	一〇〇
途蹠	人(同上下働)	同	同	七〇
放牛	的(牧場見張人)	一月ニ付	同	九〇〇
做瓦	的(煉瓦工)	同	同	一六〇〇
表畫	匠(表具師)	同	同	一九〇〇
成衣	工(仕立工)	同	同	二一〇〇
熟皮	匠(鞣皮工)	同	同	一三〇〇
籬桶	匠(桶屋)	同	同	一五〇〇
厨子	(料理人)	同	同	一五〇〇

車	鞍	做	靴	洗	送	鐘	機	刻	染	首	做	鐵	釘	做	畫	打	夥	學
匠(車製造工)	匠(馬具師)	的(菓子職)	匠	匠	的(郵便配達)	匠(時計職)	匠(機織工)	匠	匠(染物職)	匠(飾職)	的(造花職)	匠(鑄物師)	的(蹄鐵工)	匠	匠(畫工)	的(鍛冶)	計(店)	意(丁)
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一四〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	一八〇〇	一二〇〇	一三〇〇	二五〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	二三〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一四〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	八〇〇〇	二五〇〇

厨	管	馬	打	打	司	老	司	老
夫(園丁)	夫(園丁)	夫(夜番)	的(雜役夫)	的(雜役夫)	的(雜役夫)	的(雜役夫)	的(雜役夫)	的(雜役夫)
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
五〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一五〇〇

第十九章 物價

當地方ニ於テハ歐洲大戰勃發後外國品ノ輸入杜絶シタル結果輸入品ノ大部分ハ本邦製品ノ占ムル所トナリ内地ニ於ケル物價ノ昂騰ハ直ニ當地方市場ニ其影響ヲ及ホシ從來低廉ナリシ土貨スラモ之カ爲ニ吊上ケラレテ概ネ五割乃至七割ノ高値ヲ示スニ至レリ從來當地方物價ハ冬季(穀物出廻季)ヨリ支那正月ニ至ル間ニ於テ最モ高ク夏期ニ於テ最モ安ク春三四月ノ交ニ於テ平調ヲ示スヲ例トセリ

最近二年間ニ於ケル當地方物價ヲ土產品及輸入品ノ別ニヨリ小賣値ヲ標準トシテ表示スル時ハ左ノ如シ

第一節 土貨

土產品物價表

燒餅 鯉家 雞豚 羊牛 菠白 葱大 菁線 豆黃 麥稗 胡

酒 鴨 肉肉 肉菜 菜 根 蔴 蔴 柏菸 粉子 麻

百 同 一 同 一 同 同 同 同 十 同 百 一 一 百 同 同
斤 斤 羽 斤 斤 斤 斤 斤 斤 斤 枚 斗 斤 斤

一六〇〇 二五 四〇 四〇 五〇 二五 三〇 二五 三〇 五〇 二〇 三〇 一四〇〇 二五〇〇 一八五 三三三 四三〇 七五 五・六〇

二二〇〇 三〇 四五 五〇 八六〇 二五 三五 二八 二一五 二〇 二〇 四〇 一〇〇〇 二〇〇〇 一七五 二一八 五〇〇 二九六 六〇〇

1111

蘇 碗 黑 綠 小 大 小 大 粉 白 蕎 小 大 粉 粟 唐 玉 高 品
粒 粒
糯 糯

子 豆 豆 豆 豆 豆 米 米 米 米 麥 麥 麥 粟 黍 黍 梁

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 一
斗

二・二〇 二・一〇 二・〇〇 三・一〇 二・二五 二・〇〇 六・〇〇 一・一〇〇 二・四〇 四・〇〇 一・〇〇 二・八〇 七五 七〇 九五 八〇 一・五〇 七・八

二・二〇 二・一〇 二・〇〇 三・一〇 二・二五 二・〇〇 一・〇〇〇 一・二五〇 三・〇〇 五・〇〇 一・二〇 三・一五 九五 九〇 一・四六 九五 二・五〇 一・四〇

大正八年三月末

大正九年三月末

1110

品名	単位	大正八年三月末	大正九年三月末
水(砂)	(日本)	三〇〇	三二〇
鹽(砂)	(支那)	四八〇	四四〇
茶(上)	(支那)	一五〇	一六〇
茶(中)	(支那)	一一〇	一四〇
茶(下)	(支那)	一〇〇	九〇
紅茶	(支那)	二五	二〇
正喜撰	(日本)	一四〇	一四〇
同川柳	(日本)	三八	三八
煉乳(鷺印)	(米)	九六〇	一一四〇
同(姊妹印)	(米)	八二〇	九〇〇
醬油(上)	(樽)	一〇〇	一三〇〇
同(印)	(樽)	一〇〇	一三〇〇
味の元(小瓶)	(本)	一六	一七
酢(小瓶)	(本)	四〇	四五
ソース(中瓶)	(本)	三八	四〇
胡椒(小瓶)	(本)	三八	四〇
胡椒(同)	(本)	四〇	四〇
卓鹽(大瓶)	(本)	三七五	三九五
味の素(同)	(本)	二二〇	二三〇
珈琲(球)	(本)	七五	八〇

備考 貨幣相場ハ大正八年三月三十一日金壹圓對小洋九角九分五厘、大正九年三月三十一日金壹圓對小洋七角貳分八厘ナリ

第二節 輸移入品

イ、食料品物價表

品名	産地	單位	大正八年三月末	大正九年三月末
紅糖	(支那)	(支)	二四〇	二六〇
白糖	(日本)	(斤)	二五〇	二八〇
黑糖	(日本)	(斤)	二五〇	二八〇
瓦		(千個)	一五〇〇	一七〇〇
煉炭		(同)	一五〇〇	一七〇〇
石炭		(百斤)	八五〇	九〇〇
木炭		(同)	二五〇	二八〇
薪		(百斤)	七五〇	九〇〇
麻		(同)	七〇〇	八〇〇
桐油		(同)	四五〇	五〇〇
香油		(同)	五〇〇	四〇〇
香		(同)	三五〇	四〇〇
梨		(同)	三五〇	四〇〇
醬		(斤)	一六〇	一六〇

品名	支産地	單位	大正八年三月末	大正九年三月末
同 (梨)	本	同	一五〇	一五〇
同 (水蜜桃)	本	同	三七〇	三七五
同 (杏)	本	同	六〇	六五
同 (木毒)	本	同	七〇	七〇
火 燧	那	斤	一・一〇	一・二〇
海 參	本	同	五・四〇	五・二〇
木 茸	本	同	一・一〇	一・五〇
子 茸	本	百	二・七〇	三・〇〇
梅 干	本	同	三・〇	四・〇
鯉 節	本	同	一・三〇	一・八〇
干 瓢	本	同	五〇	七〇
淺 草	本	帖	三・五	五〇
寒 天	本	本	〇六	〇七
寒 晒粉	本	袋	三二	三五
片 栗粉	本	同	二五	二五

備考 貨物相場ハ大正八年三月三十一日金一圓對小洋九角九分五厘大正九年三月三十一日金一圓對小洋七角貳分八厘

ナリ
ロ、日用品及諸雜貨物價表
大正八年三月末 大正九年三月末
二二四 二二二
二三五

同 (バインアップル)	日	本	同	三六〇	三六五
同 (蟹)	日	本	同	一・二〇	一・六〇
同 (蛙)	日	本	同	一・八〇	八〇
同 (牛肉)	日	本	同	一・六五	六五
同 (鮑魚)	日	本	同	一・七五	七五
同 (東京漬)	日	本	同	五〇	六〇
同 (福神漬)	日	本	同	一・四五	五五
同 (松茸)	日	本	同	一・〇〇	一・三五
同 (鯉)	日	本	同	五五	六五
同 (詰符)	日	本	同	六七〇	八五
同 (虎印)	日	本	同	一七〇〇	一八・二〇
同 (三矢印)	日	本	同	一六・五〇	一九・四〇
同 (金露印瓶詰)	日	本	同	三〇・〇〇	三八・四〇
同 (日本酒)	日	本	同	二・五〇	三・〇〇
同 (紹興酒)	支	那	同	七四・〇〇	一〇〇・〇〇
同 (ウイスキー)	英	國	同	三・八〇	四・〇〇
同 (コーヒシロップ)	日	本	同	一・二〇	一・七〇
同 (ポルトワイン)	日	本	同	五・二〇	五・五〇

古新開
 卷紙
 半紙
 半紙
 狀紙
 座紙
 水筆
 墨筆
 石輪(ミツツ)
 同(花王)
 同(スワ)
 洗濯石鹼
 クラプ洗粉
 ホーカ液、大
 美顏水、中
 棒油、小
 レートクリーム、中
 齒磨(クラブ)
 同(ライオン)

(日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (支) (支) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日)

本 本

同 一 一 同 同 一 一 同 同 同 同 一 一 一 十 百 一 一 百

袋 個 瓶 袋 個 對 枚 枚 帖 卷 斤

二三七 一六 二二 三五 五〇 四〇 五五 三五 三〇 一八 三〇 四〇 六〇 五〇 四・四〇 〇五 六〇 〇八 二八 一七〇

一六 二二 三五 五〇 四〇 六〇 三五 三〇 一八 三〇 四〇 六〇 五〇 四・八〇 〇九 二七 一〇 三〇 一七〇

龍頭花旗布
 漂花旗布
 英國花西及坎布
 中國大尺白布
 白市布
 打連布
 タオ
 綿縫糸
 綿糸
 眞綿
 カンバス製袋
 麻袋
 洋蠟
 美孚石油
 亞細亞石油
 燐寸
 葉煙草
 紙卷煙
 エナメル洗面器

(日) (英) (支) (支) (英) (米) (日) (支) (支) (支) (支) (日) (日) (日) (日) (支) (英) (支) (支)

本 國 那 本 國 國 國 那 那 那 那 本 本 本 本 那 國 那 那

一 一 一 一 同 同 一 同 一 同 同 一 一 同 同 同 同 同 同 同

個 盒 斤 包 箱 條 斤 枚

一・二〇 三〇〇 三〇 〇六 一〇〇 一・〇〇 七・〇〇 一・八〇 一・八〇 八〇 二〇 三〇 三〇 三〇 二四 二八 二八 二〇 二二六

一・四〇 四・二〇 二〇 〇五 九・〇〇 九・六〇 六・〇〇 一・九五 九・〇〇 一・八〇 一・八〇 二五 二八 二八 二二 二五 二六 一七

齒磨楊子	(日)	本	一	本	二三八	三〇
靴裏草履	(日)	本	同	本	二八	三〇
山桐駒下駄	(日)	本	一	本	七〇	三五
花筵	(日)	本	同	本	七五	九五
石灰	(支)	本	一	斤	二・三〇	二・五〇
釘	(日)	本	一	斤	二・〇〇	一・八〇
仁丹(容器入)	(日)	本	一	個	八〇	一・〇〇
中將湯(一週間分)	(日)	本	一	本	一・二〇	一・二〇
肝油(鱈印)	(日)	本	一	本	二・八〇	二・八〇
次亞磷(大關印)	(日)	本	一	本	一・四〇	一・四〇
石炭酸	(日)	本	一	ボンド	四・四〇	四・五〇
硝子酸	(日)	本	同	本	一・八〇	二・〇〇
グリスリン	(日)	本	同	本	二・五〇	二・五〇
ワセリン	(日)	本	同	本	一・五〇	一・五〇
オリブ油	(日)	本	同	本	三・五〇	三・五〇
フホルマリン	(日)	本	同	本	二・六〇	三・六〇
苦味丁	(日)	本	同	本	八五	八五
硝子砂	(日)	本	同	本	一・四〇	一・五〇

酒 精 (日) 本 同 七〇 七〇
 絹 帶 (日) 本 一 袋 八〇 一・〇〇
 ガ ーゼ (日) 本 一 反 五〇 五〇
 脱脂綿 (日) 本 一 袋(入) 一・二〇 一・四〇

備考 貨幣相場ハ大正八年三月三十一日金一圓對小洋九角九分五厘、大正九年三月三十一日金一圓對小洋七角二分八厘ナリ

第二十章 本邦人ノ着目スヘキ事業

第一節 採木業及製材業

南滿洲一帯ハ鴨綠江沿岸ヲ除ク外近來建築材甚タ缺乏セルニ輝南、柳河及濛江諸縣ハ美材少ナカラス就中濛江一帯ノ龍崗地方森林地帯ハ斧鉞ノ入ラサル處女林尙多ク年々輝南、様子哨及朝陽鎮ニ集散スル良材(材木ノ種類、價格、運賃及集散高及其取引慣習ニ就テハ商業及林業ノ章下ニ詳述セリ)亦少ナカラス然ルニ現在山元迄ノ交通不便ナルト森林地帯ニ於ケル匪賊ノ跳梁甚タシキトニヨリ邦人ノ經營ニ適用セサルカ如キモ開海鐵道開通ノ曉ニハ適當ノ地點ニ製材工場ヲ設ケ採木及販運ヲ爲サハ最モ有利ナルヘシ

第二節 鑛山業

輝南縣杉松崗炭坑ハ大正四年日支條約ニ依リ我國ノ權利ヲ得タル所ニシテ廣ク知ラルル所ナルカ開海鐵道完成ノ曉ニハ奧地ニ新興スヘキ諸工業ハ該炭坑ニ俟ツモノ甚タ多カルヘク又該炭坑ヨリ程遠カラサル安子河鐵鑛ハ現今支那人間ニ株式會

社ヲ設立シ土法ニ依リ僅ニ採掘シツツアレト收支償ハサル爲メ株主中ニハ本邦人トノ合辦ヲ希望シ居ルモノアリ
若シ本邦資本家ニシテ鐵道開通後該炭坑ト鐵礦トヲ統一シテ日支合辦ノ下ニ經營セムカ蓋シ之ヨリ有利ナル業ハ他ニナカ
ルヘシ

第三節 電燈事業

海龍、朝陽鎮、様子哨、柳河及輝南ノ諸市ハ相當ノ人口ヲ有スルニ拘ハラス未タ電燈ノ設備ナシ拘鹿北山城子等ニ最近電
燈會社ヲ設ケ相當成功ヲ收メツツアルニ徴シ此等諸市ニ電燈事業ヲ創ムルハ有望ナリト思料セラル

第四節 銀行業

當地方現在ノ交通狀態ニテハ現金輸送上ノ不便ニ由リ今俄カニ銀行ヲ設立スルコト困難ナラムモ將來邦人ノ奥地發展ト共
ニ銀行ノ設立ハ緊要事ナルト同時ニ其有望ナルハ言フ俟タス(當地方金融ノ狀態ニ就テハ金融ノ章下ニ於テ詳述セリ)

第五節 大豆買出殊ニ先物買付

邦人ノ多クハ匪賊ノ危險ヲ虞ルルト奥地ノ事情ニ通セザルトノ爲メニ三者ヲ除ク外奥地ニ大豆ノ買付ヲ爲スモノナク鐵道
沿線地方ニ取引セラルル當地方産大豆ハ全部支那商人ニヨリ輸出セラレタルモノノミナリ然ルニ夏季農家ニ資金ヲ要スル
時期ニ於テハ大豆ノ先物ハ僅ニ一斗七、八十錢ノ安價ニテ買付コトヲ得ヘシ收穫時期ニ於ケル當地方ノ相場一圓十錢(例年ノ
相場)ニ比較セハ約六七割ニテ買付タルコトヲ得即チ半年間ニ四割ノ利廻リトナリ極メテ有利ナル事業タルヲ失ハス(詳
細ニ就テハ穀物取引ノ項參照)

第六節 精米業

當館管内ニハ鮮人ノ水田ヲ耕作スルモノ多ク從テ米ノ産額莫大ナリ産米ハ朝鮮米ニ比シ毫モ遜色ナク且ツ粳ハ一斗(日本
枰)一圓三十錢内外白米ハ二圓乃至二圓二十錢見當ニシテ頗ル廉價ニ買付クルコトヲ得レハ適當ナル地ニ精米工場ヲ設ケ
米ヲ販運スルモ極メテ有利ナル業ノ一ナリ

第七節 油房業

當地方油房業者ハ何レモ土法ニヨリテ搾油シツツアリ從テ豆粕ニハ油分及水分ノ殘留スルモノ多ク運搬又ハ貯藏中ニ黒黴
ノ生スルモノ多ク之ヲ肥料トシテ用フル時ハ油分ノ過多ニヨリ肥效ヲ遲緩シ飼畜用ニ供スル時ハ家畜ノ下痢症ヲ誘致スル
コト多シ仍テ本邦資本家ニシテ當地方ニ相當ノ資本ヲ投シ機力ヲ以テ搾油シ豆粕ハ支那人間ニ販賣スルト共ニ優良ナル豆
粕ヲ輸出セハ甚タ有望ナリ其原料タル大豆ハ前述ノ如ク極メテ安價ニ買付クルコトヲ得ルヲ以テ鐵道沿線ニテ斯業ニ從事
スルニ比シ遙ニ有利ナルコト言フ俟タス(工業ノ章油房參照)

第八節 水田事業

柳河地方等ニ於テ鮮人ノ水田ヲ耕作セルモノヲ見ルニ耕作ノ方法甚タ拙劣ナルモノアリ加之ニ地方官民ノ壓迫ヲ受ケ極メ
テ苛酷ナル條件ノ下ニ小作ニ從事シツツアル鮮人甚タ多シ本邦資本家ニシテ廣大ナル敷地ヲ商租シ是等鮮人ヲ使役シテ大
規模ノ水田ヲ經營セムカ當地方産米ノ收穫ヲ増大セシメ鈔クモ滿洲ニ於ケル邦人ノ需用スル白米ノ供給ハ當地方ニ仰クコ
トヲ得ヘク其有利ナルコト言フ俟タス

第九節 製粉業

輸入麥粉ニ對抗シテ土人ノ磨房ヲ經營スルモノ甚タ多シ然カモ此等磨房ノ製品ハ品質甚タ劣等ナルノミナラス勞役賃不廉ナルト製粉機ノ作業能率甚タ低級ナル爲メ價格ハ輸入品ト左程異ナラス(工業章磨房參照)若シ機力ニヨル製粉業ヲ當地方ニ起サムカ輸入品ノ倍額ニ相當スル土產品ニ對抗シ優ニ聲價ヲ博スルコトヲ得ヘシ況ヤ原料タル小麥ノ供給豊富ニシテ價格亦廉ナルオヤ

第十節 各種醸造業

支那人ハ近來日本醬油ノ長所ヲ知り漸次使用シ來リタレハ北山城子海龍又ハ朝陽鎮ニ於テ安價ナル原料ヲ以テ醬油ヲ醸造販賣スルハ有望ナラム又様子哨地方ハ水質甚タ良好ナレハ鐵道開通後該地ニ日本酒ノ醸造業又ハ當地方ニ産スル天然葡萄酒(百斤一元二角内外産額甚タ多シ)ヲ原料トスル葡萄酒醸造業ヲ起スモ極メテ有利ナルヘシ

第十一節 牧畜

當地方ニ於ケル牧畜ハ何レモ農家等ノ副業ニシテ何等畜類ノ保護手入ヲ爲サスシテ自然ノ儘ニ飼育シ優ニ相當ノ成績ヲ收メツツアリ若シ當地方ニ於ケル廣大ナル甸地ヲトシテ牧場ヲ經營シ優良家畜ノ飼育ヲ爲スト共ニ羊毛ノ採取ニ從事セハ實ニ有利ナルモノアラム其飼料タルヘキ地方油房燒鍋ノ殘搾(豆粕、酒粕)ノ大部分ハ安價ニテ肥料トシテ農家ヘ賣捌カレツツアリ況ヤ他ニ競争ノ地位ニ立ツヘキ同業者ナキオヤ

第十二節 板硝子ノ輸出

當地方ハ交通不便ニシテ板硝子ノ如キ易損品ノ輸入甚タ困難ナルカ爲メ官廳商家ノ建築ハ勿論一般家屋ハ未タ總テ舊式支那紙張ノ窓ヲ使用シ居レリ從テ鐵道開通前後ヨリ此等家屋ノ改造セラルルモノ甚タ多カルヘキヲ以テ當地方ハ斯業者ノ看過スヘカラサル重要販路ナリ
現在當地方ニ於ケル板硝子ノ相場ハ鐵嶺開原等鐵道沿線地方相場ノ五割乃至十割高ヲ示セリ斯業者ニシテ當地方ニ支店若クハ代理店ヲ設ケ板硝子ノ賣込ヲ爲サハ至大ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ヘシ

第十三節 綿糸布類直輸出

當地方支那商人ハ營口若クハ奉天ヨリ輸入本邦産綿糸布ヲ購入販賣シ居レル爲メ消費者ハ税金諸掛及商手数料ヲ二重ニ納メタル極メテ高價ナルモノヲ需用シ居レリ本邦商人ニシテ當地方ニ支店、代理店又ハ特約店ヲ設ケ直輸出ノ方法ヲ講セハ綿糸布ノ販路ヲ更ニ擴張シ得ヘキハ言ヲ俟タス

第十四節 海產物直輸出

當地方ニ本邦産鹽乾魚海藻等ノ輸入セラルル額ハ年々莫大ノ額ニ達ス輸入地ハ營口ニシテ全部支那商ノ手ニヨレリ本邦商ニシテ當地方支那商ト特約直輸出スル時ハ收利多キコト言ヲ俟タス

第十五節 兩替及爲替業

當地方支那商對本邦内地商人ノ商取引頻繁ノ度ヲ加フルニ從ヒ邦貨ノ流通額多キニ至ルヘシ然ルニ當地方現在ノ貨幣制度ニテハ送金爲替取組ノ方法甚タ困難ナリ(金融ノ章參照)仍テ當地方各都市ニテハ鈔クモ三四戸宛兩替及爲替ヲ專業トシ質屋若クハ金貸業ヲ副業トスル本邦商ヲ必要トス

第十六節 柞蠶ノ放養及同繭ノ輸出

柳河地方ニ於ケル柞蠶ノ放養ハ有望事業ニシテ本邦人カ廣大ナル地域ヲ借入レ斯業ヲ牧畜ト共ニ經營シ産繭ノ輸出ヲ企テハ收利多カルヘシト信ス

第二十一章 管内ニ於ケル水田事業

第一節 水田ノ面積

當管内ニ於ケル水田ハ悉ク朝鮮人ニ依リテ耕作セラレツツアリ蓋シ支那人ハ古來水稻ノ耕耘ヲ知ラサル爲メ水田ニ好適ノ地モ徒ラニ荆棘ノ生フルニ任セタルカ近年朝鮮人ノ移住シ來ルニ及ヒ彼等ハ旬地即チ支那人ノ所謂耕作不能地ヲ利用シテ水田ト化シ年々移住者ノ増加スルニ從ヒ之ヨリ產出スル米穀モ相當ノ額ニ達シタレハ近年著シタ社會ノ注目ヲ惹クニ至レリ

管内ニ於ケル水田ノ分布ヲ見ルニ其最も多キハ柳河縣ノ西半及海龍縣ノ南部ニ互ル輝發江ノ流域ニシテ海龍縣ノ北部及柳河縣ノ東部様子哨地方之ニ次キ輝南縣最モ尠シ今其面積ヲ既耕地可耕地別ニ區別スレハ左ノ如シ

耕地別	海龍縣	柳河縣	輝南縣	計
既耕地	二、三七八	七、六〇〇	七五二	一〇、七三〇
可耕地	七、五〇〇	二〇、〇〇〇	一、二〇〇	二八、七〇〇
合計	九、八七八	二七、六〇〇	一、九五二	三九、四三〇

備考 可耕地ハ鮮人ノ未開幼稚ナル經營法ニ適セル天惠の水田好適地ノミヲ計上セルヲ以テ人爲的改良工事ヲ加ヘ

耕作シ得ヘキ地ハ尙右數字ノ數倍ニ上ルコト言フ俟タス
右ノ内一箇所ニ五十天地以上ヲ有スル重ナル水田所在地ヲ舉クレハ左ノ如シ

海龍縣	柳河縣	輝南縣
地名	地名	地名
天地數	天地數	天地數
大荒溝 三〇〇	三源浦 一、〇〇〇	大場園 二〇〇
蛤蟆塘 三〇〇	鹿尾巴林 一、〇〇〇	流水溝 一五二
到木溝 二〇〇	魚亮子 五〇〇	中陽堡 一五〇
下水道子 二〇〇	向陽鎮 五〇〇	其他諸地方 二五〇
四馬溝 一八〇	黃崴子 五〇〇	
羅孤字子 一四〇	凉水河子 五〇〇	
山道河子 一三〇	仙人溝 三〇〇	
四八且 一二〇	柳河 一〇〇	
草市及乾井子 一〇〇	大沙灘 五〇	
六官巷 一〇〇	五道溝 五〇	
平道河子 一〇〇	通溝 五〇	
花樹河子 八〇	様子哨 五〇	
頭道河子 七〇	其他諸地方 三、〇〇〇	
大猪圈子 六〇		
其他諸地方 二九八		

備考 前表ノ内柳河縣仙人溝及様子哨地方ハ最モ膏腴ノ地ト稱セラレ他ハ何レモ相當肥沃ニシテ燒礮ノ地ナキモ涼水河子附近及輝南縣一帶ハ龍崗ノ森林地帯ニ近ク馬賊ノ跳梁甚シキカ爲メ水田業ノ著シキ發達ヲ見スサレト將來此等諸地方ニシテ開拓セラレハ到ル處ニ美田ヲ見ルニ至ルヘシ

第二節 氣象、地味、灌溉ノ便否、地價及借地料

(イ) 氣象水田ノ耕作ハ三月中旬ヨリ九月下旬迄トス氣象ニ就テハ農業ノ章下ニ於テ記述セルカ如ク寒暑ノ差甚シク夏季甚タ短キモ農作物ハ夏季七、八月中ニ於ケル炎熱ト降雨トニヨリ急速ノ成育ヲ遂ケ水稻ノ如キモ此期ノ終ニ至レハ出穂シ九月初旬ノ降霜期迄ニハ結實スルカ爲メ之カ耕作上何等天候ノ障害アルナシ但雨期ニハ往々河川氾濫ノタメ又昨夏ノ如ク旱魃ニ遭遇セハ水田ニ龜裂ヲ生シ稻ヲ枯死セシムコト尠ナカラス是レカ爲メ鮮人中陸稻ヲ水田ニ植付ケ所謂乾田ノ法ヲ採用シ居レルモノ少ナカラス

(ロ) 地味及灌溉ノ便否 現在鮮人ニヨリ經營セラレツツアル水田ハ概テ數百年來放擲セラレタル低濕地ニ屬シ地味甚タ肥沃ニシテ開墾後四、五年間ハ施肥ヲ行ハスシテ充分ノ收穫ヲ得地味ハ腐植性ノ黒土ニシテ其厚サハ二尺乃至四尺位アリ下層ハ砂土ニシテ鬆緊一様ナラス

移住鮮人ニヨリテ行ハルル灌溉ノ模様ヲ見ルニ彼等ハ水流ヨリ自然ニ灌溉セラレル地域ノミヲ耕作シ人爲的灌溉ノ施設ヲ爲シ居ルモノアルヲ見ス

當地方ハ輝發江ノ流域ニ屬シ到處ニ其支流アルヲ以テ灌溉ハ甚タ便利ナルモ鮮人ハ可成河川ニ遠サカレハ地ヲ避ケ粗糲ナル二條ノ小堤ヲ以テ地表ニ土溝ノ如キモノヲ作リテ引水シ居リ其灌溉タルヤ如何ニモ貧弱拙劣ナルモアリ是レ畢竟スルニ彼等ノ耕作法ノ幼稚ナルコトヲ示スモノナリト雖モ一面渡來鮮人ノ資金ニ乏シキヲ物語ルモノニシテ彼等ハ縱令獨カ若クハ數戸ノ共力ヲ以テ相當ノ灌溉設備ヲ爲スモ因テ生スル利益ニ對シテハ往々附近支那人ノ嫉妬ヲ買ヒ疏水ヲ堰カレ又ハ堤ヲ破壞セラレル等ノコトアリ加之近年水田ノ地價ハ暴騰シテ普通農耕地ヨリ高値ヲ唱フルニ至レルヲ以テ支那人地主ハ之ニ味ヲ占メ鮮人ヲシテ全然利用ノ途ナキ荒蕪地ヲ開墾セシメ後幾何ナラスシテ之ヲ奪フ等ノ風ヲ生シ將タ契約ノ年限モ逐年短縮セラレル傾向アリ勢ヒ灌溉其他ニ永續的施設ヲ施スヲ得サルハ已ムヲ得サル次第ト謂フヘク彼等カ轉々移住スルコト遊牧ノ民ニ彷彿タルモノアルハ一ニ是レカ爲ナラスンハアラサルナリ

(ハ) 他借地料 本項ニ就テハ既ニ農業ノ章下ニ詳述セルヲ以テ茲ニハ其概略ヲ敘スヘシ地價ハ開墾初年ニ於テハ殆ト無價值ニ等キモ水田トシテ耕作セラルルニ至ラハ一躍上則地ノ二、三割高ヲ示スニ至ル尤モ鮮支人間ニ土地ノ賣買セラルルコトナキヲ以テ這ハ支那人間ノ賣買價格トス

水田用地ノ貸借契約中最モ廣ク行ハルルハ分益法(穀納種ニ錢納ノ契約ヲ爲スモノアリ)ナリ之レ鮮人カ他ヲ發見シタル場合解約ニ好都合ナルト收穫後ニ於テ租價ヲ納ムル便宜アルヲ以テナリ

一天地ノ租價左ノ如シ

區別	上等地	中等地	下等	備考
穀納	一年ニ付一石二斗	一年ニ付八斗	一年ニ付五斗	一石ハ約我二石ニ當ル
錢納	同 自五十元至六十元	同 自三十五元至四十元	同 自二十元至二十五元	

多少ノ資産ヲ有スルモノ又ハ數名數名合資ノ下ニ土地ヲ貸入ルル者ハ所謂典契約ニヨリ水田用地ノ典價ハ一天地ニ付四十元乃至九十元ニシテ期間モ比較的長期ニ互リ且ツ租料ヲ要セサル爲メ甚タ有利ナルモ纏リタル資金ヲ固定セシメサルヘカラサル爲メ此ノ方法ニ依ルモノ稀ナリ

第三節 水田業ノ實況

(イ) 稻ノ種類左ノ如シ

種類	早	晚	收穫高一天地ニ付	玄米歩合	作付歩合	備考
光頭	中早稻		九石	五分	一割五分	無禾
麥租	晚稻		八石	五分	一割五分	同上
北海	中早稻		九石	四分	一割五分	有禾
大邱	同上		八石	四分	三割	同上
山頭	早稻		十石	三分五厘	二割五分	同上
糯	同		八石	四分五厘	二分	無禾

二四八

(ロ) 播種期及播種法

播種期ハ陽曆四月上旬ヨリ下旬ニ至ル間ナルカ播種ノ方法ハ本邦内地ニ於ケルト全ク其趣ヲ異ニシ苗代ニ播種シテ苗ノ移植ヲ爲スカ如キコトナク解氷ヲ待ツテ田ヲ耕シタル後水ヲ引キ牛馬又ハ人力ニ依リ土ノ塊ヲ軟柔平滑ナラシメ水ノ清澄スル頃ヲ見計ヒテ粗ヲ散蒔シ發芽ノ上間引ヲ行フモノナリ尤モ粗ハ蒔込ニ先立チ三日許水ニ浸シタル上浮揚セルモノヲ去リ更ニ水ヲ取換ヘテ一週間水中ニ放置シ取上ケテ數時間水ヲ斷チ然ル後蒔付クルモノトス

サレト播種ノ遅レタル時ハ數日多ク水ニ浸シ幾分萌芽スルヲ俟テ蒔付クカ若クハ水ヲ斷チタルモノヲ細長キ苞莖ニ容レ温突ノ上ニ置キテ加熱シ一寸位發芽シタルモノヲ蒔付クルカ孰レカノ方法ニ依レリ但シ北海稻ノミハ時期ノ早晚ニ拘ラス凡テ一週間浸水シテ蒔付ケ斯ル手加減ヲ施サス

(ハ) 除草法 苗ノ三寸位ニ發育シタル頃苗ト苗トノ間隔一寸位宛ヲ保タシメテ冗芽ノ間引ヲナスト同時ニ第一回ノ除草ヲ行フ但此際雜草ノ多キ箇所ハ墾横共五寸位ノ間隔ヲ置カシム第二回ノ除草ハ幹莖六寸位ニ及フ頃ニ第三回ノ除草ハ結實ノ頃ニ行ハル

(ニ) 灌溉法

蒔付當時ハ水深五六寸トシ苗ノ二寸位ニ發育シタル頃約一寸減水セシメ發芽ノ四葉ニ岐ル頃再ヒ苗ノ高サニ増水シ約十日ヲ經タル後漸次減水シ水ノ絶ユルヲ俟テ三日間乾燥セシメテ苗足ヲ鞏固ニシ再ヒ苗ノ丈迄灌溉ヲ行フ這ハ稗ノ發芽ヲ防ク手段トス

(ホ) 收穫期及收穫ノ方法

收穫期ハ北海稻ニ在リテハ陽曆九月上旬トシ他ハ同シク中旬ヨリ下旬迄トス今收穫ノ方法ヲ見ルニ一名ハ鎌ヲ以テ四、五株宛ヲ束ネテ刈取り之ヲ一束トシテ順次畦ニ陳ヘ行キ他ノ一名ハ十束乃至十五束宛ヲ繩ヲ以テ括リ二三尺宛ノ間隔ヲ置キテ一箇所ニ纏メ斯クシテ全部ノ刈取ヲ了スレハ十月中旬頃迄之ヲ日ニ晒シテ乾燥セシメ同月末頃ニ至リ屋内ニ運入レ穂ヲ中央ニ向ケテ圓形ニ推積シ置キ乾燥ノ充分ナルモノヨリ次第ニ脱穀ヲ行フ脱穀ニハ稻扱ヲ用ヒスシテ稻束ヲ丸形ノ石塊又ハ木材ニ打チ付ケ居レリ脱穀ニ次テ精米ニ移ル精米ニハ碾子ヲ用フ碾子トハ直徑四五尺ノ圓形石盤(下臼)ト其中央ノ心棒ヨリ盤ノ端ニ至ル約三尺廻リノ圓筒形ノ石(上臼)トヨリ成リ上臼ニ驢馬ヲ繫キテ之ヲ下臼ノ上ニ廻轉セシメ盤上ノ粗ヲ精米スル表置ノモノナリ碾子ニヨル一日ノ精米高ハ約粗三石(約我六石)ナリ

(ハ) 貯藏法 貯藏法ハ極メテ簡單ニシテ庭内ノ空地ニ舖ヲ束ネテ土俵ノ如キモノヲ作り安平(高粱稗製)ヲ敷キテ粗ヲ盛リ周圍ヲ安平又ハ藎ヲ以テ保護シ上ニ藎ノ覆ヲ施シ置クヲ通例トス

第四節 米ノ需給關係及滿鐵沿線地方ノ輸出數量

鮮人ハ高粱包米粟等ヲ常食トシ居レルヲ以テ彼等ノ收穫スル米ノ九割以上ハ市場ニ賣却セラルヘシ假ニ産米ノ一割ヲ彼等ノ自家用ト見テ右九割ノ内海龍、柳河、輝南、濛江、通化、東豐、西豐、西安等鐵道沿線ニ至ル迄ノ地方ニ於テ消費セラルモノ少ナカラサルヲ以テ右地方ニ於ケル消費高ヲ四割見當トシ實際沿線ニ搬出セラルル數量ヲ五割即チ約七萬八千石(平年作)ト見ハ大差ナカルヘシ尙米ノ出廻時期ハ通例陽曆十二月ヨリ翌年一月迄ナルカ同期ニ於ケル相場ハ今一、二年來諸物價ノ騰貴ニ連レ幾分ノ騰貴ヲ見タリ昨年來ノ出廻期及端境期ニ於ケル小賣相場(大口ノ買出相場ハ左記價格ノ七割乃

二四九

要八割見當ナリ)左ノ如シ

白米一斗(支那樹)ニ付	十二月	一期	端境期
	大正七年	四元五角	三元五角
	大正八年	五元五角	四元五角
大正九年	五元	五元五角	

二五〇

第五節 米ノ産額並水田耕作者數

一支畝ニ於ケル米ノ標準收穫量ハ上田三石、中田二石五斗、下田二石(支那樹)ニシテ日本樹ノ約倍量ニ相當ス)ナルカ當館管内ニ於ケル一天地(六畝)ノ收穫高ハ新耕地多キカ爲メ平年作ニ於テ上等地ニテ十二、三石下等地ニテ十石上リノ見當ニシテ一般ニ之レカ標準ヲ超ユルコト尠シ然ルニ大正八年度中ノ管内三縣ニ於ケル全收穫高ハ各地共旱害ノ爲メ二三割ノ減收ヲ見タルニ拘ハラス十三萬八百六十石ノ多額ニ上レリ今之ヲ耕作田地數(二萬七百三十田地)ニ割リ充ツル時ハ一天地ニ付十二石二斗弱ノ割合トナリ甚タ好成績ナリ是レ土地ノ肥沃ナル爲メ或地方ニ於テハ前記標準ヲ超ヘ尠クモ十四、五石以上ノ收穫アリシヲ證スルモノナリ

一石ニ對スル玄米上リ高ハ有禾三割五分乃至四割五分無禾五割ナルモ其作付ハ有禾ノ七ニ對スル無禾三ノ歩合ナルヲ以テ之ヲ内輪ニ見積リ一石ニ對スル玄米平均四割トスレハ玄米ノ收穫ハ五萬二千三百四十四石アリタル計算ナリ一石ノ相場ハ昨今小洋十六、七元ナルモ客年來ノ銀價騰貴ニヨリ買付本邦商人ノ打撃ヲ蒙リタルモノ少ナカラシテ何レモ手控ノ姿ナルヲ以テ收穫減少ト相俟テ一石ノ鐵道沿線ヘノ輸出高ハ例年ヨリ少ナカリキ今般ノ産額ト耕作鮮人數トヲ各縣別ニ舉クレハ左ノ如シ

種別	海龍縣	柳河縣	輝南縣	合計
粗收穫高(大正七年)	三四、二四三石	一一、三六〇石	一二、三八一石	一五七、九八四石
同 上(大正八年)	二八、五三六石	九二、八〇〇石	九、五二四石	一三〇、八六〇石
耕作鮮人數	戶數	戶數	戶數	戶數
	男 五四	男 一三三	男 一七	男 二二三
	女 一三五	女 八	女 二二三	女 五九六
	男 八三	男 四三〇	男 三三	男 五九六
	女 一四八	女 三三〇	女 一七	女 四二六

第六節 將來ノ豫想及施設ヲ要スヘキ事項

現在當地方ニ於ケル鮮人ノ水田經營法ヲ見ルニ前述ノ如ク甚タ消極的ニシテ耕作法ノ如キモ頗ル幼稚ノ域ヲ脱セサルモノアルニ拘ラス收穫ノ成績甚タ良好ナルハ當地方ノ地質カ水稻ノ耕作ニ好適セルヲ證シテ餘アリ況ヤ鮮人ノ多クハ自然的灌漑ノ便アル地若クハ支那ノ放擲セル低濕地ノ内天惠的ニ利用シ得ヘキモノノミヲ選ヒ粗ヲ散蒔シタル儘殆ト手ヲ入ルルコトナクシテ相當ノ收穫ヲ獲ツツアルオヤ

然レトモ在留鮮人ノ大部分ハ無資産者ニシテ殆ト其日ノ生計ニ追ハレサルモノナキヲ以テ漸次渡來者ノ増加スルニ從ヒ彼等ノ生活問題ハ層一層吃緊ヲ告ケ因テ生スル弊害ハ蓋シ設想スルニ堪ヘサルモノアラムサレハ少シク耕作ニ不便ノ地ニテモ將來之ニ相當努力ト施設トヲ加ヘ開拓シテ美田ト化セシメ以テ彼等ノ生活ノ安定ヲ圖ルコト肝要ナリ

是レカ差當リノ實行方法トシテハ先ツ低利資金ヲ融通シテ彼等カ水利ノ便ヲ圖リ役農具購入ノ資金ニ充テ又農會ノ如キモノヲ設ケテ耕作法ノ監督指導及種子農具ノ貸付ヲ爲シ副業ノ獎勵ヲ爲ス等適當ノ保護誘掖ヲ與ヘ彼等ノ生活ノ安定ヲ確保シ得ヘキ積極的施設ヲ爲ササルヘカラスサレハ管内ノ水田事業ハ將來充分發達シテ當地ハ終ニ一大米産地トナルヘキコト必定ナルヘシ

321
95

終